

様似郷土館紀要

BULLETIN OF SAMANI FOLK MUSEUM

6号 2026.3

<紀要>

- 【論文】様似町西町ランプロファイアーの黒雲母
(島田 哲也・井上 隆・新井田 清信) 1
- 【調査報告】アポイドリームプロジェクトと2024年度～2025年度の実施報告
(田村 裕之) 11
- 【調査報告】様似町アポイ岳とその周辺の蝶類(第2報)
(渡辺 康之・河野 潤・永盛 俊行) 19
- 【論文】様似町におけるカマキリ3種の記録
(榎本 尊) 31

<年報>

- 様似郷土館 39
- | | |
|---------|--------------|
| 1. 施設概要 | 3. 郷土館利用状況 |
| 2. 運営 | 4. 郷土館事業活動内容 |
- アポイ岳ジオパークビジターセンター 45
- | | |
|---------|-------------------|
| 1. 施設概要 | 3. ビジターセンター利用状況 |
| 2. 運営 | 4. ビジターセンター事業活動内容 |

様似町西町ランプロファイアーの黒雲母

(Petrography of lamprophyre biotite in the Samani Nishi-machi)

島田 哲也*¹・井上 隆*¹・新井田 清信*¹

(Shimada Tetsuya・Inoue Takashi・Niida Kiyooki)

1. はじめに

筆者らは、昨年発刊された様似郷土館紀要5号にて、従来ひん岩として記載されていた様似町西町ホタフンペの小丘が、実はランプロファイアーの岩脈からなることを明らかにし、日高南部に点在するランプロファイアー岩脈と比較しながらその産状や化学組成について報告した(島田ほか、2025)。その概略は以下の通りである。

- (1) 従来ひん岩として記載されていた岩脈はランプロファイアーに改正される。
- (2) これを日高南部に点在するものと比較すると、いずれも肉眼的にはよく似た産状や組織を示すが、基質に対する黒雲母斑晶量の割合は地域により異なり、特に乳呑川最上流部は異常に高い。黒雲母斑晶については、各地点の比較検討をさらに進める必要がある。
- (3) また、乳呑川最上流部を除いてランプロファイアーの基質には斑状の白色スポットが認められ、とくに様似町西町のもは顕著であり、これも検討を要する。
- (4) 様似町西町ランプロファイアーの基質部の化学組成は、著しく高濃度のアルカリ量を示し、SiO₂ wt. %に乏しく高い MgO wt. %を示すので、未分化なマグマからできたと考えられる。この化学組成領域は、アジア大陸東縁部に分布するアルカリ玄武岩やベイサナイトなどの高アルカリ火山岩の組成領域に合致することから、この地域のランプロファイアーは島弧的ではなく、大陸的なアルカリ岩質マグマの活動によってできたと解釈される。
- (5) 様似町西町付近の海岸地域には多数のひん岩の分布が知られている。今回の発見によってランプロファイアーの分布域が東に広がり、様似町西部の狭い地域内でランプロファイアーとひん岩が共存する実態が明らかになった。
- (6) したがって、この海岸地域では、中新世中期の17Ma 頃に、2つの異なるマグマ (SiO₂に乏しく MgO に富み高アルカリ質のランプロファイアーマグマと、SiO₂に富み MgO に乏しくフェルシクなひん岩マグマ) が活動した活発なマグマ活動の時代があったと推定される。

この報告を通して同地域のアルカリ岩質マグマ活動の一端を明らかにできた。その結果、久保・佐藤(1984)の記載報告をさらに進めることができたが、課題として次の点が残っていると筆者らは考えた。

1 つは、薄片観察を含む詳細な岩石記載を示すとともに、様似町西町の顕著な特徴である白色スポットについて検討を深めること。もう1つは、日高南部に産するランプロファイアーの大きな特徴として黒雲母斑晶を顕著に含むので、その量比や斑晶のサイズ等を地域ごとに比較検討して実態を明ら

*1 ジオラボ_アポイ岳 (様似町アポイ岳地質研究所)

かにすることである。

本報告では、この2点を中心に分析検討を進め、様似町西町ホタフンペのランプロファイアーについて詳細を示すことを目的とした。

2. ランプロファイアーの岩石記載

日高南部に散在するランプロファイアーは島弧的ではなく、大陸的なアルカリ岩質マグマの活動によると解釈されることは、前回の報告で明らかにできた（島田ほか 2025）。今回の報告は、この研究の流れの中で石基組織や白色スポットの実態をより詳しく把握することを目的とする。そこで様似西町ランプロファイアーの2試料（No. 1208-1A, およびNo. 1208-2A）については偏光顕微鏡観察とモード測定を行い、白色スポット2試料（No. 1208-2B, および No. 1208-5）についてはX線粉末回折を行った。以上、その分析にあたっては、札幌のアースサイエンス株式会社に依頼（発注）した（アースサイエンス 2024）。

（1）肉眼観察

様似町西町ランプロファイアーの基質は細粒緻密な灰色で、1~20 mm程の白色ないし褐色を呈する発泡痕状の組織がスポット状に散在する（図1）。このスポット状の組織は乳呑川北を除く他の地域でもみられるが様似西町のもは特徴的に顕著で、これを本報告では「白色スポット」と称する。内部は半透明~白色の鉱物で充填され、大きなものでは空洞になることもしばしばある。

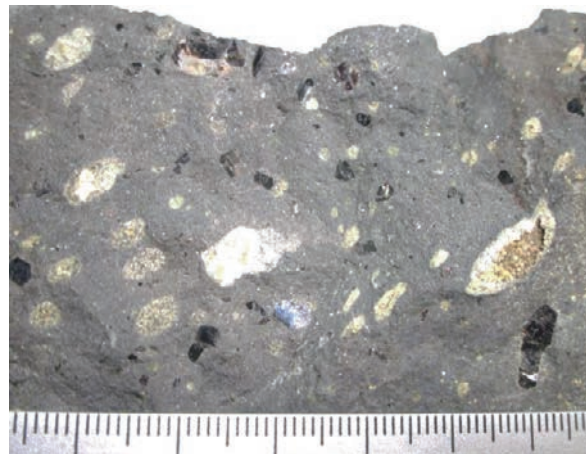


図1 : 様似町西町ランプロファイアーの岩石試料表面の写真。中央の白色部分が「白色スポット」。
サンプル No. 1007-1。写真下のスケールは1 mm

黒雲母斑晶は1~10 mm程の薄板状結晶として認められ、不規則に散在する。1~2 mmのサイズが主だが、稀に10 mmを越えるもの認められる。黒雲母が基質を占める割合は低く、基質の一定面積に対して黒雲母斑晶の占める割合は1.4 個/cm²程度である。黒雲母斑晶の詳細は、他地域との比較も含めて後述する。

（2）偏光顕微鏡観察

岩石組織について

ランプロファイアー試料 NO. 1208-1A は、岩石全体としては斑状組織を示し、石基はインターサータ

ル組織を示す。黒雲母などの斑晶鉱物が目立ち、特徴的に石基鉱物は細粒である。粒間ガラスの少ない主要部分に、斑晶が小さく石基にガラスが多い幅 4~9 mmの細粒部分が層状に狭在する(図 2)。狭在部にはオープンニコルで灰色の方沸石が多く、淡褐色の沸石他が多い部分が入り乱れて分布する。主要部の石基ガラスはオープンニコル下で帯褐灰色で、不均質に濃淡がある。いずれも変質して沸石などに交代し、初生ガラスの残存は確認できない。

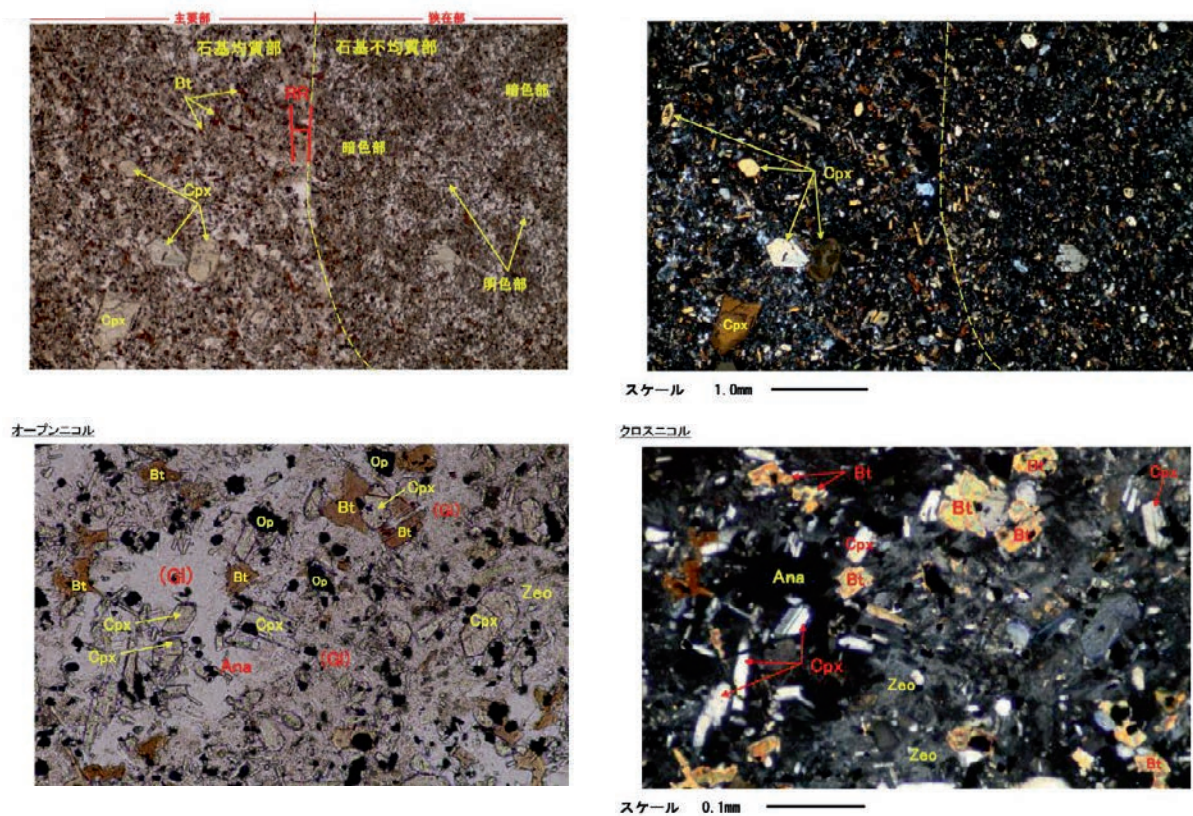


図 2 : 様似町西町ランプロファイアの全岩の岩組織(左:オープンニコル, 右:クロスニコル)
主に細粒な石基からなる。略号は図 3 と同じ。

主要部には石基鉱物(黒雲母や単斜輝石)の配列による弱い流理構造が認められる。この流理構造は狭在部との境界に調和的なことが多く、部分的にやや斜交する。狭在部中の流理構造も認められるが、狭在部の伸長方向に調和的である。狭在部は主要部との間に幅 0.3~0.5 mmの反応縁を持つ。ここにはアルカリ長石(塊状, 長柱状)が多く、黒雲母を含み不透明鉱物が比較的少ない。

発泡痕と考えられる円形や不規則形の「白色スポット」が散在する。試料では直径 4 mm以下で、薄片内では直径 1.2 mm以下のものが含まれる。このうち、確実に白色スポットと考えられるものはアルカリ長石や繊維状~長柱状の沸石に充填される。

もう 1 つの試料(No. 1208-2A)については、全体は同じく斑状組織を示し、石基はインターサタル組織を示す。石基ガラスは変質しているが、元の色調を反映し、オープンニコル下で帯褐灰色で色調の濃淡がある。沸石などに交代し、初生ガラスの残存は確認できない。石基の特徴は 1A の主要部に類似するが、それよりやや細粒である。白色スポットと考えられる断面が円形~楕円形の領域(最大長径 10 mm)が散在する。主として白色鉱物に充填され、目視では孔壁沿いに白色不透明の希塩酸で発泡しない鉱物(沸石)が、内部には希塩酸で発泡する方解石主体の鉱物が卓越する。

両試料(1208-1A, 1208-2A)とも斑状組織で、石基は完晶質ではなくインターサタル組織を示し、ガラスを伴っていたと考えられる。また試料 No. 1208-1A には、弱い流理が認められる。「斑晶が発達し、石基ガラス(変質)がやや少ない主体部」と「斑晶が少なく石基ガラス(変質)がやや多く、かつ不均質な狭在部」に区別できる。

斑晶について

ランプロファイアー試料(No. 1208-1A)を観察すると、単斜輝石は自形で短～長柱状、長径 2.0 mm 以下。X' = 帯褐灰色、Z' = 帯緑灰色の多色性があり、累帯構造顕著である(図 3)。この場合、内部は緑色味が強く、外側で褐色味が強い。しばしば 3 種の構造が認められる。緑色味の強い部分を①、それを囲む褐色の部分を②、周縁の褐色部を③とすると、不透明鉱物は②と③に含まれる。ときに砂時計構造が認められる。

黒雲母は自形、板状～半自形、融食形。長径 4.5 mm 以下である(図 4)。X' = 淡褐色 Z' = 褐色の多色性があり、周縁に反応縁を伴う。斑晶の黒雲母に直接する側から外へ向かって、黒雲母の 2 次成長部(幅 0.02～0.03 mm) → 沸石(幅 0.02～0.04 mm : 干渉色暗灰) → 「半自形不透明鉱物を包有する黒雲母(X' = 淡緑色、Z' = 褐緑色)」(幅 0.05～0.1 mm) が生成される。

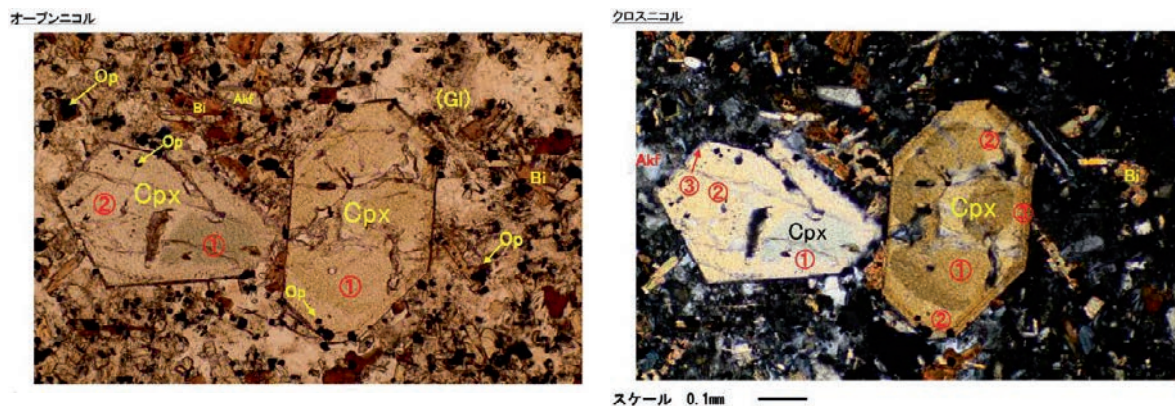


図 3 :ランプロファイアー(試料 No. 1208-1A)の単斜輝石斑晶(左:オープンニコル, 右:クロスニコル)。
略号:Cpx=単斜輝石, Op=不透明鉱物, Arf=アルカリ長石, Gl=火山ガラス。

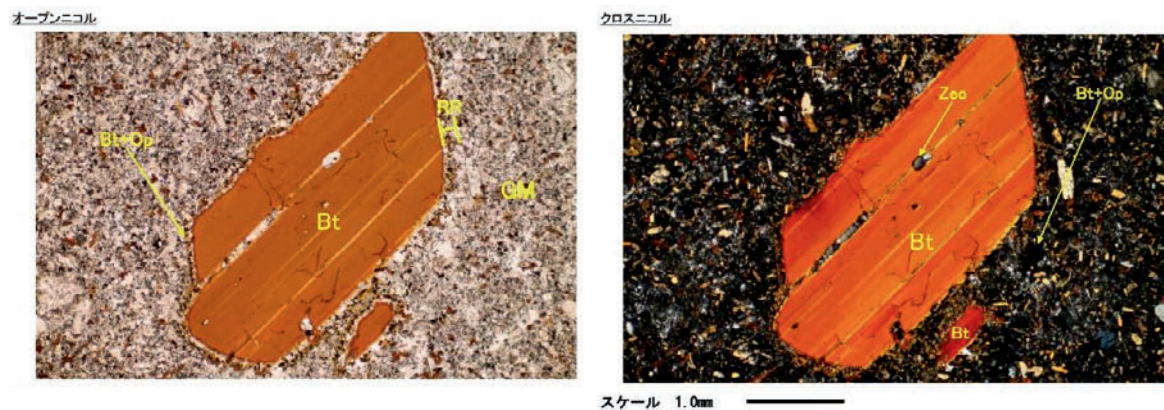


図 4 :ランプロファイアー(試料 No. 1208-1A)の黒雲母斑晶(左:オープンニコル, 右:クロスニコル)
略号:Bt=黒雲母, Cpx=単斜輝石, Op=不透明鉱物, Zeo=沸石。

試料 No. 1208-2A について、単斜輝石は自形で短～長柱状。長径は 3.0 mm 以下。X' = 帯褐灰色、Z' =

帯緑灰色の多色性があり、累帯構造や砂時計構造が認められる。累帯構造顕著な場合、しばしば内部の緑色味が強く、 X' = 帯褐緑色、 Z' = 帯緑灰色である。

黒雲母は自形～他形、板状、ときに融食形。長径は2.4 mm以下である。 X' = 淡褐色、 Z' = 褐色の多色性を示す。自形～他形の不透明鉱物や柱状の燐灰石(アパタイト)を包有する。周縁に幅0.1 mm±の反応縁を伴う。黒雲母斑晶に接して、2次成長黒雲母があり、その外側に干渉色暗灰の沸石と不透明鉱物を包有する黒雲母が不均質に分布する。燐灰石は自形、短～長柱状、長径0.4 mm以下である。

斑晶はいずれの試料も自形の単斜輝石と黒雲母が主体で、斑晶量は5.5%～6.0%である。試料No. 1208-2Aには、少量の燐灰石も含まれる。単斜輝石斑晶は主として淡褐色で、しばしば3重の累帯構造を示し、最も内部がやや緑色味を帯びる。多色性が認められ、砂時計構造も認められる。チタン普通輝石であると考えられる。不透明鉱物を包有するが、内部の帯緑色部には含まれず、その外側2帯に含まれる。黒雲母斑晶は大きいものでは直径7 mmに及ぶ(薄片内では試料No. 1208-1Aで最大直径4 mm)。しばしば融食形で、黒雲母・沸石・不透明鉱物からなる反応縁を持つ。

石基について

試料No. 1208-1Aについて、ガラスは完全に変質し、主として沸石に交代される。このうち少なくとも一部は干渉色暗黒の方沸石となる。また図5のように、一部は干渉色灰で、詳細不明の沸石や微細なアルカリ長石が生成している。単斜輝石は自形～半自形、短～長柱状、長径0.2 mm程度以下、帯緑淡褐色を呈する。アルカリ長石は他形、粒間充填状、長径0.2 mm以下である。しばしば自形の単斜輝石や黒雲母がアルカリ長石に透入したり、包有される。不透明鉱物は自形～半自形、粒状。四辺形断面の磁鉄鉱が主体で、他形・柱状～不規則形のチタン鉄鉱も含まれる。2次鉱物の黄鉄鉱との区別は困難である。黒雲母は自形～他形、板状、長径0.2 mm程度以下で X' = 淡褐灰色、 Z' = 褐色を呈する。

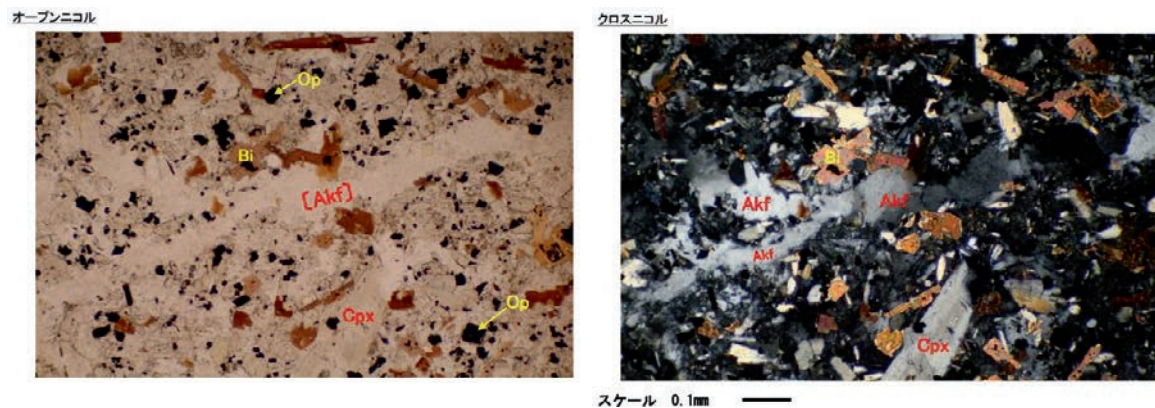


図5 試料No. 1208-1Aのアルカリ長石の濃集脈(左:オープンニコル, 右:クロスニコル)

様似西町ランプロファイアー(試料No. 1208-2A)について、ガラスは完全に変質し、主として沸石に交代されている。そのうち一部は透明で、干渉色暗灰の方沸石、また一部は干渉色灰で、詳細不明の沸石やアルカリ長石が生じている。黒雲母は自形～他形、板状、長径0.2 mm以下である。 X' = 淡褐色、 Z' = 褐色の多色性を呈する。アルカリ長石は半自形、短柱状～他形、粒間充填状。長径は0.1 mm以下である。単斜輝石は自形～半自形、短～長柱状。長径は0.2 mm程度以下である。不透明鉱物は自形～半自形、粒状である。自形粒状の磁鉄鉱が主体で、長柱状や他形のチタン鉄鉱を含む。燐灰石は自形、短～長柱状、長径0.1 mm以下である。

両試料 (No. 1208-1A, No. 1208-2A) とともに、石基は変質ガラス・単斜輝石・アルカリ長石・不透明鉱物・黒雲母からなる。ガラスは完全に変質し、主として沸石 (方沸石および干渉色暗灰の沸石) に交代されている。アルカリ長石は不定形で、自形の単斜輝石・不透明鉱物・黒雲母の粒間を埋めて、粒間充填状に生じている。産状からはアルカリ長石の一部も初生鉱物でなく、ガラスの一部を交代した可能性がある。マグマ冷却時～固結後にガラスを交代したアルカリ長石があるかもしれない。アルカリ長石が結晶作用に伴って生成した場合、少なくとも単斜輝石・不透明鉱物・黒雲母の生成の後に結晶したと考えられる。不透明鉱物はその形態から磁鉄鉱のほかにはチタン鉄鉱を含む。

(3) 白色スポットの構成

すでに岩石記載で述べたように、様似町西町ランプロファイアーには、特徴的に多数の「白色スポット」が含まれている (前章の図1)。スポットの内部は半透明～白色の沸石鉱物やアルカリ長石、方解石で充填され、大きなものでは空洞を伴う (図6)。

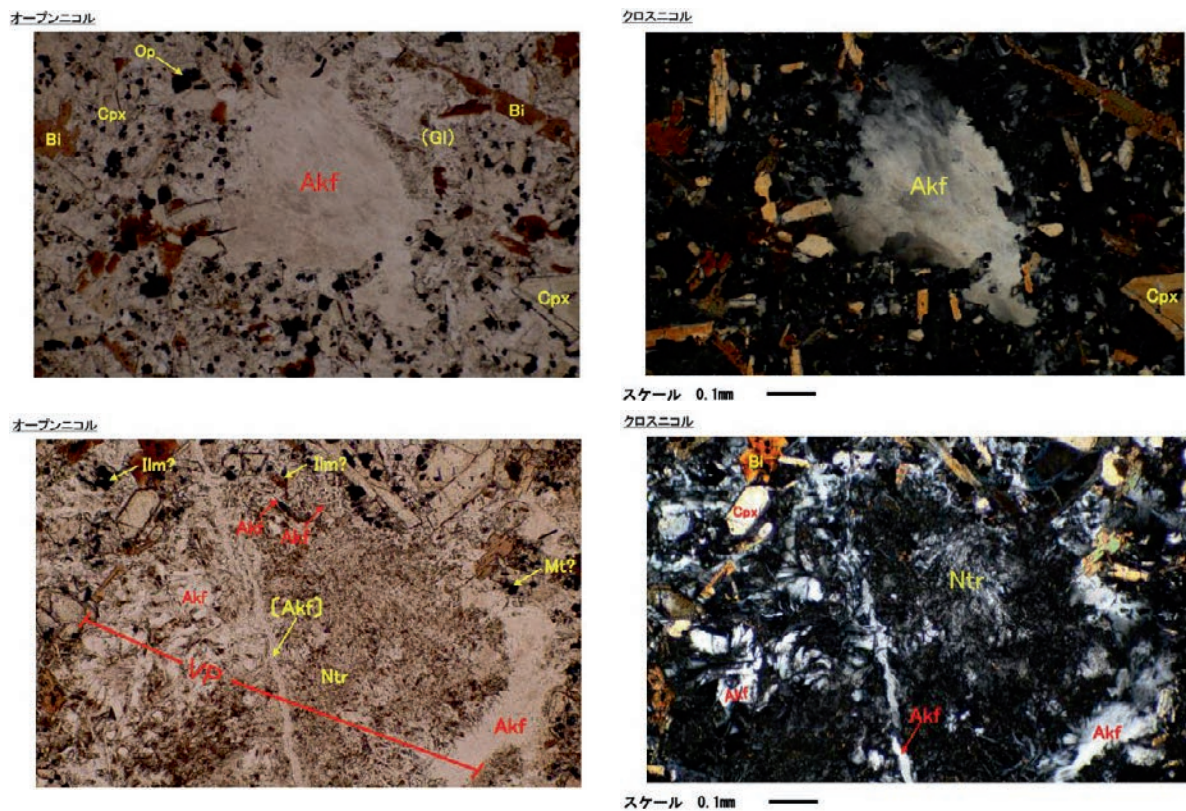


図6 :No. 1208-1A の「白色スポット」充填鉱物 (左: オープンニコール, 右: クロスニコール)。

略号 : Akf=アルカリ長石, Ilm=チタン鉄鉱, Ntr=ソーダ沸石。

白色スポット 2 試料 (No. 1208-2B, ならびに No. 1208-5) について、X線粉末回折を行った。その分析にあたっては、札幌のアースサイエンス株式会社に依頼 (発注) した。(アースサイエンス, 2024)。その結果、試料 No. 1208-2B の白色スポットは、全体的に微細な方解石からなり、試料 No. 1208-5 の白色スポットは、ほぼ等量のソーダ沸石と方解石からなることがわかった。

3. ランプロファイアー中の黒雲母斑晶

日高南部に点在するランプロファイアーの断面を観察すると、自形の黒雲母斑晶が随所に多数含まれており、その個数や大きさに違いがある。このことについて、①量比（モード比） ②断面1 cm²あたりの個数 ③直径と割合 ④10mm を超える斑晶についてデータを元に数値化して特徴を捉えることを試みた。なお地域名については、島田ほか(2025)の区分によっている。

(1) 量比（モード比）

6地域のサンプルの断面を写真撮影し、縦5cm×横5cm（25 cm²）の枠を2.5 mmずつに区切って、一枠あたり361（19×19）の交点に黒雲母がいくつあるのかをカウントした。結果は下記の表の通りである。1～4の地域については、露頭から十分な量が得られたので、1地域あたり10個のサンプルから合計で250 cm²のデータを得ることができたが、5・6の地域は同面積に必要なサンプルが得られなかったため、参考値とした。

計測の結果、乳呑川北が量比38.4%と突出して多い数値を示している。乳呑川南、向別西（参考値）、向別東が11～15%であり、様似町西町ホタフンペと絵笛南（参考値）が6%台の数値を表している。

表1 : 黒雲母のカウント数の地域比較（黒雲母の量比を示す。）

	サンプル採取地域	メッシュ総数	黒雲母	量比 %	備考
1	様似町西町ホタフンペ	3 6 1 0	2 3 1	6.4	
2	乳呑川北	3 6 1 0	1 3 8 7	38.4	
3	乳呑川南	3 6 1 0	5 7 1	15.8	
4	向別東	3 6 1 0	4 1 7	11.6	
5	向別西	2 9 7 4	4 2 7	14.4	参考値
6	絵笛南	3 4 9 4	2 2 6	6.5	参考値

(2) 断面1 cm²あたりの個数

計測には6地域のサンプルを使用した。1～4地域は1つの地域につき、約1000 cm²の広さで黒雲母の数を調べた。5については228 cm²、6については205 cm²の広さで単位面積あたりの黒雲母の数を計測した。

計測方法は、サンプルの新鮮な断面を方眼紙に写し取り、断面の面積を決定する。写し取った断面の黒雲母の数をカウントし、個数÷面積で1 cm²あたりの個数を決定する。1つの地域のサンプルの総面積が1000 cm²になるまでこれを繰り返した。向別西と絵笛南については、サンプル数が少なく測定面積が1000 cm²に満たないので参考値とした。

ここでも乳呑川北が1 cm²あたり4.5個と他の地域と比べて2～4倍の数値になっている。様似町西町ホタフンペ(1.4個/cm²)は向別東(1.2個/cm²)と数値が似ている。参考値だが、向別西と絵笛南は1 cm²あたり1.0個以下と低い値を示す。表1と併せて考えると、黒雲母斑晶の晶出について地域間に明瞭な差が認められる。このことは、同じアルカリ岩質マグマを母体としているが、黒雲母斑晶を晶出する環境が、地域によって差があったことを示している。

表2 : サンプル採取地域ごとの黒雲母の個数の比較 (1 cm²あたりの黒雲母の個数を示す)

サンプル採取地域		黒雲母の個数	備考
1	様似町西町ホタフンペ	1.4	
2	乳呑川北	4.5	
3	乳呑川南	2.1	
4	向別東	1.2	
5	向別西	1.0	参考値
6	絵笛南	0.9	参考値

(3) 直径と割合 (%)

サンプルは(2)の1 cm²あたりの個数に使用した物を使い、それぞれ黒雲母斑晶の数が1000個になるまで計測した。1mm以下の数値で、最小値が0.3になっているのは、目視での判別が困難なため、確認できる最小値をこの数値にした。

1000個まで計測できたのは1~4の地域で、向別西(300個)と絵笛南(200個)は数が少ないので参考値とした。

全体の傾向としては、斑晶の直径が1~4mmの大きさが多く含まれている。乳呑川北を除いた地域は、1.1~2mmが最大値となっている。乳呑川北は2.1~3mmが最大値であるが、その前後のサイズの斑晶も高い数値を表している。様似町西町ホタフンペは乳呑川南・絵笛南と数値の傾向が似ている。

表3 : 黒雲母の直径と出現頻度についての地域比較 数値はmm

直径(mm)		0.3	1.1	2.1	3.1	4.1	5.1	6.1	7.1	8.1	9.1	10
採集地		~1	~2	~3	~4	~5	~6	~7	~8	~9	~10	以上
1	様似町西町ホタフンペ	20.6	42.2	22.9	7.7	3.3	1.5	0.5	0.5	0.2	0.1	0.5
2	乳呑川北	3.3	21.9	28.7	20.4	11.6	6.0	2.9	2.4	1.2	0.6	0.9
3	乳呑川南	24.4	42.1	18.1	8.1	2.8	2.4	0.7	0.5	0.3	0.3	0.3
4	向別東	14.5	34.8	21.6	13.3	6.2	3.5	1.9	1.5	0.9	0.6	1.2
5	向別西 : 参考値	10.7	40.0	24.3	15.7	4.3	2.3	0.7	0.0	0.7	0.3	1.0
6	絵笛南 : 参考値	26.5	44.0	20.5	5.5	1.0	1.5	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0

※最小値の0.3mmはこれ以下の数値の黒雲母は肉眼での判別が困難なため

※ はその地域での最大値 は20%以上

(4) 10mmを超える斑晶

計測した中では乳呑川北の28.5mmが最大値である。また、10mm以上の個数については向別東が多い。

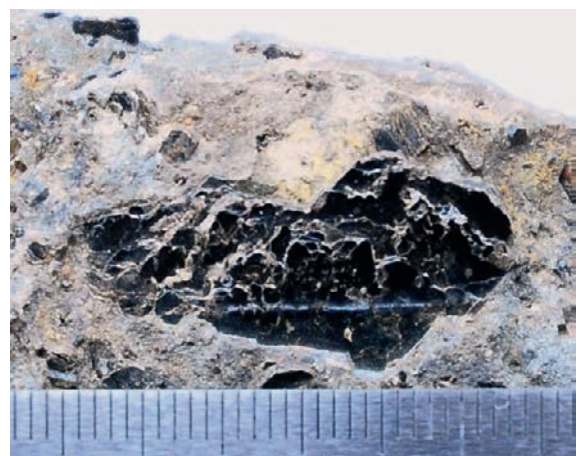
表4 :10mm を超える黒雲母斑晶の個数と最大値の地域比較 数値は mm

	サンプル採取地域	個 数	最大値 (mm)	備 考
1	様似町西町ホタフンペ	5	15.2	1000個中の数
2	乳呑川北	9	28.5	同上
3	乳呑川南	3	17.8	同上
4	向別東	12	18.7	同上
5	向別西	3	18.6	300個中の数
6	絵笛南	0	※7.0	200個中の数

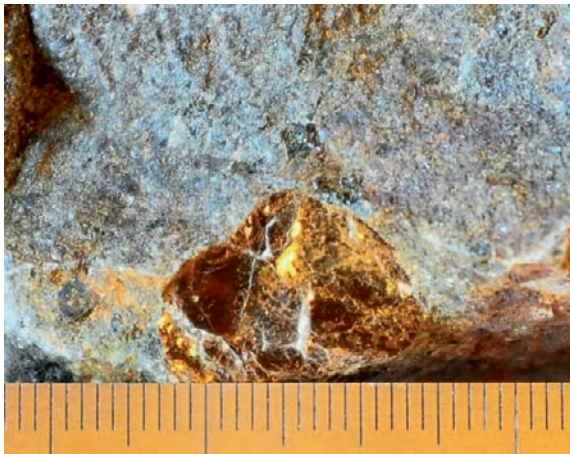
※絵笛南は最大値が表のように7mmが最大値であり10mmを超える黒雲母は確認できなかった。



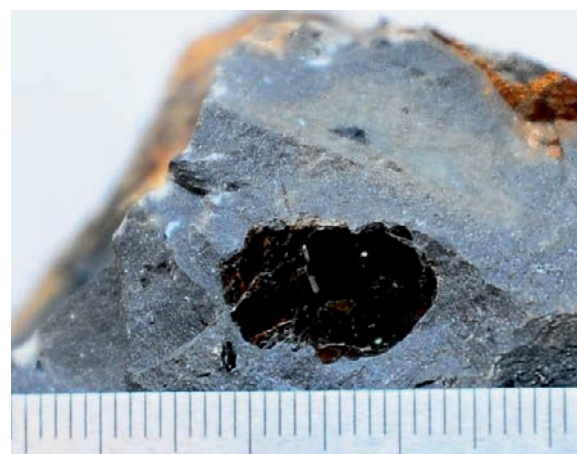
様似町西町ホタフンペ (No. H221103-11)



乳呑川北 (No. TN230415-01)



乳呑川南 (No. TS230513-26)



向別東 (No. ME221103-23)

図7 : 10mm を超える黒雲母の斑晶 (写真下のスケールは1mm)。

(5) その他黒雲母の印象について

斑晶の黒雲母は、写真のように厚みを持ったものが各地のサンプルから見いだされた。図8左は乳呑川北で、直径は5.3mm、厚さは5.1mm。右は、乳呑川南で、直径は3.8mm、厚さは2.7mm。サンプル

採取時には、10mm を超える厚さを持ったものが、上記の地域に加えて、様似町西町ホタフンペ・向別東からも確認されている。

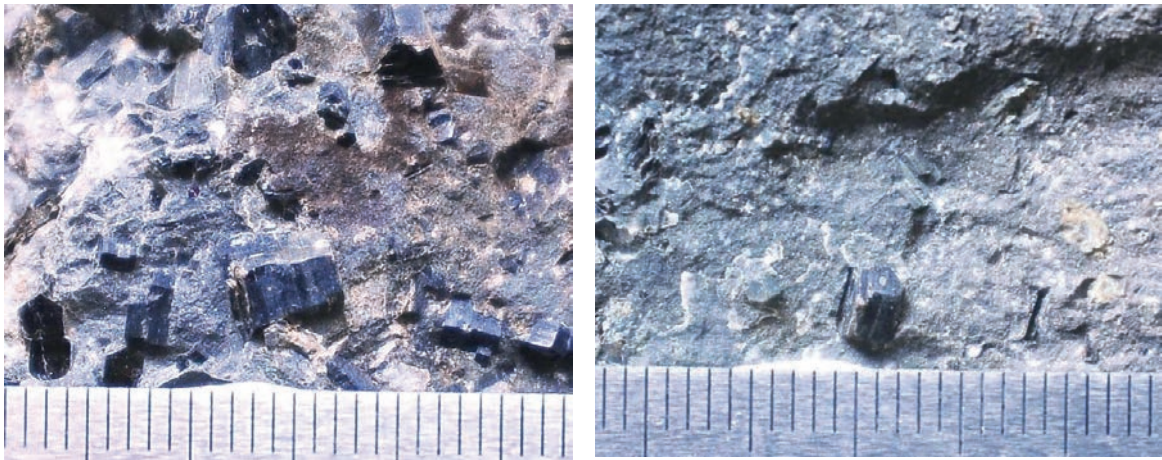


図8：サンプルの拡大写真

左：乳呑川北(No. TN230415-01) 右：乳呑川南(No. TS230513-26) (スケールは1mm)

4. まとめ

- (1) 分析試料は斑状組織で、石基は完晶質ではなくインターサタル組織を示す。またガラスを伴っていたと考えられる。晶出過程について、久保・佐藤(1984)の議論を再検証することができた。ただし、久保らはガラスは未確認であり、ガラスの変質による鉱物の生成は考慮されていない。この点については議論を要する。
- (2) 様似西町ランプロファイアーで顕著な白色スポットについて、微細な方解石単独またはソーダ沸石と方解石の混在からなることが明らかになった。
- (3) 日高南部のランプロファイアーは黒雲母斑晶の晶出が特徴だが、この岩脈は、中部～上部蝦夷層群にほぼ平行に点在して貫入する。その量比や単位面積あたりの晶出数を比較すると、地域間に明瞭な差が認められる。最も顕著なのが乳呑川北で、そこから離れるほど値が下がる傾向が読み取れる。このことは、同じアルカリ岩質マグマを母体としているが、黒雲母斑晶を晶出する環境が、地域によって差があったことを示している。

【謝辞】

本報告をまとめるにあたって、堺俊樹氏には度々議論に加わっていただいた。改めてお礼申し上げます。

【引用文献】

- アースサイエンス (株), 2022, アルカリ岩分析報告書。アースサイエンス (株), 札幌, 11p.
- アースサイエンス (株), 2024, ランプロファイアー岩石記載に関わる分析報告書。アースサイエンス (株), 札幌, 19p.
- 久保和也・佐藤博之, 1984, 北海道浦河地域のランプロファイアー。地質学雑誌, 第90巻, 第10号, 717-731.
- 島田哲也・井上 隆・新井田清信, 2025, 様似町西町ホタフンペのランプロファイアー。様似郷土館紀要, 5号, 1-14.

アポイドリームプロジェクトと2024年度～2025年度の実施報告

(Report of Apoi Dream Project for FY 2024-2025)

田村 裕之

(Tamura Hiroyuki)

1. はじめに

2024年6月に誕生した日高山脈襟裳十勝国立公園内にあるアポイ岳は、810mという気候的垂直分布帯の高山帯に達しない低標高の山でありながら、約100種の高山植物が生育している(様似町2021)。これらの高山植物は、温暖化やエゾシカによる食害などの環境変化が重なり、毎年その数を減らしている。このことから、アポイ岳再生委員会では、年々減少している高山植物再生を目的として、町民協働型育苗実験「アポイドリームプロジェクト」をスタートさせた。

本稿では、アポイドリームプロジェクトの経緯を明確にするとともに、令和6年度から7年度に行った育苗実験で見られた植物の傾向を報告する。

2. アポイドリームプロジェクトとは

2011年11月、増沢武弘静岡大学教授(当時)が様似町において『アポイドリームプロジェクト「花のアポイをもう一度」』と題した講演を行った。内容は、アポイ岳の再生活動をスタートから約10年間の“短期”、その後の10年程度の“中期”、そしてそれ以降の“長期”に分け、短期では高山植物苗の育苗や再生実験地での定着確認を行い、中期で定着可能な高山植物を5合目避難小屋等に移植実験し、長期で特別保護地区を含むアポイ岳核心部への移植を行い高山植物群落の再生を図っていこうというものであった。これを受け、アポイ岳再生委員会(註1)(会長:渡辺定元氏 当時)が様似町民を対象に、家庭で高山植物の苗を育てる活動を提唱したのがアポイドリームプロジェクトの始まりである。同年の冬には、アポイ岳ファンクラブのメンバー数人が高山植物の種子に人工的に冬から春にかけての季節を感じさせるための冷湿処理を学び、各家庭での育苗を実施した。翌年、育ったエゾコウゾリナの苗をアポイ岳5合目下にある再生実験地(図1、図2)に移植し、自然な環境下での育成状況を確認した。これにより、再生活動に係る“短期”活動の最初の一步を踏み出し、アポイドリームプロジェクトが開始された。

2014年には、様似町教育委員会の賛同を得て、様似中学校の事業の一つに位置付けられ進められることになった。この活動は2025年現在までも引きつがれている。

2018年、アポイ環境科学委員会(註2)の中で、再生実験地の将来像を含めた使用方法について疑義が出された。そのため再生実験地の考え方を整理する間、活動の舞台をエンルム岬に移したが、その間も本プロジェクトは途切れさせず、アポイアズマギクやエゾコウゾリナ、コハマギク、エゾマツムシソウなど6種類の植物の育苗実験や定着実験を行ってきた。

これにより、アポイアズマギクやエゾコウゾリナ、コハマギク、エゾマツムシソウなどは屋内での育苗が可能と判明し、アポイアズマギクとエゾコウゾリナは再生実験地への移植後も育つこ

1. アポイ岳ファンクラブ

とが判明した。なお、アポイクワガタやキキョウは、育苗実験は行ったもののほぼ発芽しない状態であった。原因は判然とせず、今後の課題である。



図1 再生実験地所在地

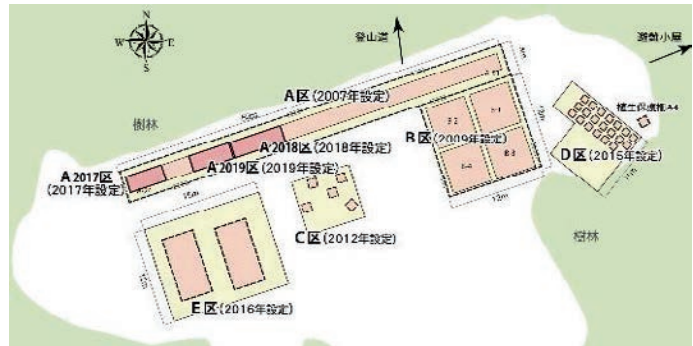


図2 再生実験地の概要図

3. 2024年度～2025年度のアポイドリームプロジェクトのねらいと実施方法

(1) 経緯と概要

次に2024～2025年度にかけて実施したアポイドリームプロジェクトの内容についてであるが、2024年12月、様似中学校において本年度最初のアポイドリームプロジェクトをスタートさせた。対象学年は1学年である。実験対象は、エゾコウゾリナと初めての試みとなるキキョウである。キキョウは、10年以上前にはアポイ岳に咲いており『アポイキキョウ』とも言われていたが、エゾシカの食害などにより姿が見られなくなっていた。2021年、再生実験地でキキョウが発見され、アポイ山麓にある栽培実験施設においてその種から増やして、保有種数が2,000個を超えたため本プロジェクトでの育苗実験に使用することを認められたものである。キキョウでの実験には、大きく2つのねらいが挙げられる。まずは、キキョウが屋内で育苗可能なのか確認することが1つ目のねらいである。もう1つのねらいとして、冷湿処理の必要性の確認である。これまでも種子の冷湿処理は毎回行ってきたが、その必要性についてデータで確認がなされていない状態であった。そのため、今後のためにも冷湿処理の効果等をデータとして残していくことを2つ目のねらいとした。

(2) 実験状況

i 冷湿処理

本実験の実施方法は、6つのグループにエゾコウゾリナとキキョウそれぞれに、冷湿処理をしたもの5粒と冷湿処理をしていないもの5粒を用意し、その育ち方の差を比較しようとするものである。2024年12月12日にアポイ岳ファンクラブメンバーが指導し冷湿処理作業を実施し、翌年1月20日に静岡大学の増澤名誉教授に来町いただき、本事業の主旨等をお話いただいた後で種の植え付けを行った。

ii 種植え

各グループの植え付け状況は表1の通りである。

ポットは、1つの教室の窓側に班ごとに置かれ、保温のため下には断熱材を敷き、簡易ビニー

ルハウスで覆った。

また、給水については使用する教室の乾燥状況によりタイミングが違ってくるため、『土が乾燥したら水をあげること』とし、実際に水が必要な土の状況を見せて指導した。

表1 種植え状況表

班	ポットNo.	種類	備考	種数
1	1	エゾコウゾリナ	冷湿処理あり	5
	2	エゾコウゾリナ	冷湿処理なし	5
	3	キキョウ	冷湿処理なし	5
	4	キキョウ	冷湿処理あり	5
2	5	キキョウ	冷湿処理あり	5
	6	エゾコウゾリナ	冷湿処理なし	5
	7	キキョウ	冷湿処理なし	5
	8	エゾコウゾリナ	冷湿処理あり	5
3	9	キキョウ	冷湿処理なし	5
	10	キキョウ	冷湿処理あり	5
	11	エゾコウゾリナ	冷湿処理なし	5
	12	エゾコウゾリナ	冷湿処理あり	5
4	13	エゾコウゾリナ	冷湿処理あり	5
	14	キキョウ	冷湿処理あり	5
	15	キキョウ	冷湿処理なし	5
	16	エゾコウゾリナ	冷湿処理なし	5
5	17	エゾコウゾリナ	冷湿処理なし	5
	18	エゾコウゾリナ	冷湿処理あり	5
	19	キキョウ	冷湿処理なし	5
	20	キキョウ	冷湿処理あり	5
6	21	キキョウ	冷湿処理あり	5
	22	キキョウ	冷湿処理なし	5
	23	エゾコウゾリナ	冷湿処理あり	5
	24	エゾコウゾリナ	冷湿処理なし	5

(3) iii 各ポットによる発芽状況について

2025年5月29日時点での各ポットの発芽状況は次のとおり（表2、表3、図2）である。

表2 ポットごとの発芽数

ポットNo.	種類	発芽数	班	備考
1	エゾコウゾリナ	4	1	冷湿処理あり
2	エゾコウゾリナ	1		冷湿処理なし
3	キキョウ	0		冷湿処理なし
4	キキョウ	1		冷湿処理あり
5	キキョウ	1	2	冷湿処理あり
6	エゾコウゾリナ	3		冷湿処理なし
7	キキョウ	2		冷湿処理なし
8	エゾコウゾリナ	0	3	冷湿処理あり
9	キキョウ	0		冷湿処理なし
10	キキョウ	0		冷湿処理あり
11	エゾコウゾリナ	2		冷湿処理なし
12	エゾコウゾリナ	4	4	冷湿処理あり
13	エゾコウゾリナ	2		冷湿処理あり
14	キキョウ	1		冷湿処理なし
15	キキョウ	0		冷湿処理なし
16	エゾコウゾリナ	0	5	冷湿処理あり
17	エゾコウゾリナ	0		冷湿処理なし
18	エゾコウゾリナ	1		冷湿処理あり
19	キキョウ	0		冷湿処理なし
20	キキョウ	1	6	冷湿処理あり
21	キキョウ	2		冷湿処理なし
22	キキョウ	1		冷湿処理あり
23	エゾコウゾリナ	2		冷湿処理なし
24	エゾコウゾリナ	0		

表3 種類ごとの発芽率

種類	冷湿処理	種子数	発芽数	発芽率 (%)
エゾコウゾリナ	あり	30	13	43.3
	なし	30	6	20.0
キキョウ	あり	30	6	20.0
	なし	30	3	10.0

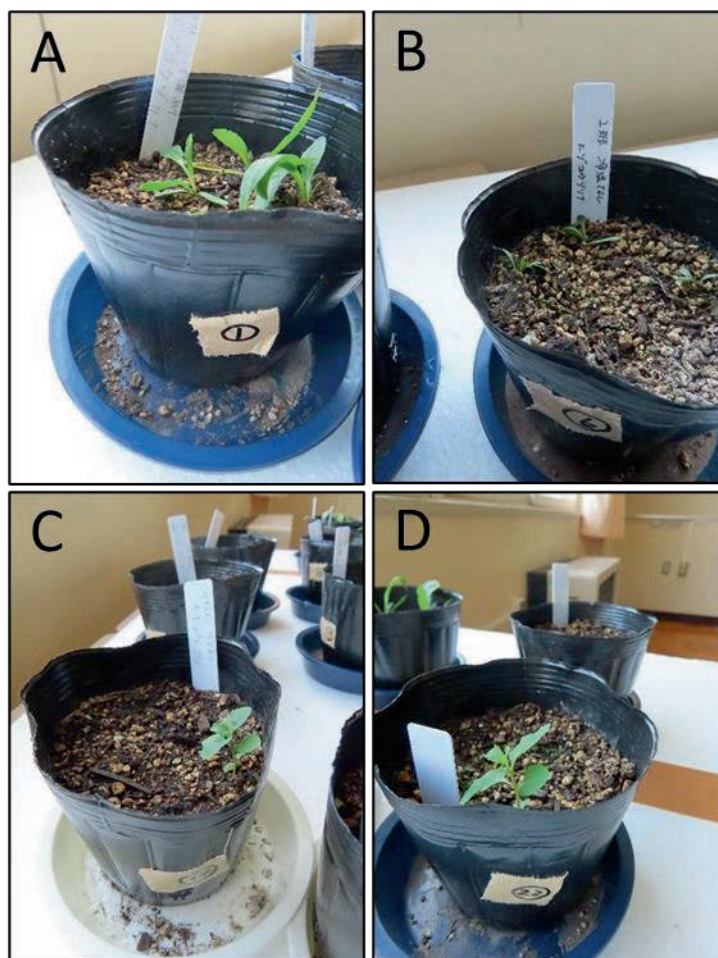


図3 ポットの代表的な状況写真

- A) ポット No. 1 (1 班) 冷湿処理あり、エゾコウゾリナ発芽数 4.
- B) ポット No. 2 (2 班) 冷湿処理なし、エゾコウゾリナ発芽数 3.
- C) ポット No. 14 (4 班) 冷湿処理あり、キキョウ発芽数 1.
- D) ポット No. 22 (6 班) 冷湿処理なし、キキョウ発芽数 1.

iv 再生実験地への移植と生育の様子

2025 年 5 月 30 日、中学校で育てた苗を、中学生が運び、再生実験地へ移植作業を行った。苗は芽が出ていても小さなものは育たない可能性が高いため、様似町で設置している栽培実験施設で育苗いただくこととした。実際に再生実験地に移植したポットは表 4 のとおりである。2 班のポットは、いずれも小さい苗であったため、アポイ岳ファンクラブ会員が育てたエゾコウゾリナ 7 株を代わりに移植することとした。この苗は図 4 のとおりいずれも特大サイズであったが、種、そして土は全て中学校のものと一緒にある。今後、大きさの違いについても検討していくものと考えるが、本稿では触れないでおく。なお、移植作業は、アポイ岳ファンクラブ会員や様似町商工観光課の助力もあり順調に進んだ。ただ、再生実験地での移植作業中、中学校で育てた苗の番号の多くが外れてしまったため、その後の追跡調査が不可能となってしまった。

追跡調査については、アポイ岳ファンクラブ会員が育てた苗を中心に観察した。その結果は表 5 のとおりである。

表4 再生実験地に移植した苗

ポットNo.	班	種類	発芽数	備考
1	1	エゾコウゾリナ	4	サイズ：中
2		キキョウ	1	サイズ：中
5	2	キキョウ	1	サイズ：中
12	3	エゾコウゾリナ	4	サイズ：大3中1
14	4	キキョウ	1	
21	6	キキョウ	2	サイズ：中1小1
22		キキョウ	1	サイズ：大
23		エゾコウゾリナ	2	サイズ：大



図4 移植作業の様子

表5 再生実験地での育苗観察状況

苗の番号	冷湿処理	4/15	6/21	7/26	8/30
T 1	あり	13 cm×10 cm	19 cm×18 cm	29 cm×26 cm	30 cm×24 cm
T 2	あり	7.5 cm×7 cm	14 cm×10 cm	24 cm×20 cm	24 cm×23 cm
T 5	なし	7.5 cm×7.5 cm	12 cm×12 cm	18 cm×16 cm	6 cm×5 cm (下の葉枯れた)
T 6	なし	4.5 cm×2 cm	8 cm×7 cm	17 cm×11 cm	22 cm×18 cm

4. 考察

冷湿処理を行った苗と行っていない苗では、エゾコウゾリナ、キキョウとも発芽率に大きな差が出たことから、発芽を促す段階では冷湿処理は重要になると考えられる（表3）。

生育段階の差については、生育状況を追跡可能な苗が少なかったのではわからないが、大きな差は見られなかった（表5）。

8. おわりに

冷湿処理については、発芽には有効との結果であったため、今後の同様の活動の中では必ず実施するよう考えている。

今回の活動では、キキョウの発芽率が非常に低かったため、原因が屋内育苗にあるのか種子の問題であったのか確認する意味で、次回も実施していきたいと考えている。また、アポイ岳ファンクラブ会員が自宅で育てた苗と学校で育てた苗では大きさに開きがあり、この原因について今後分析・研究していく必要がある。

これらの活動を通じて、アポイ岳高山植物の屋内育苗の可能性について明らかにしていきたい。

【引用文献】

様似町 2021「特別天然記念物アポイ岳高山植物群落再生事業調査報告書」

註1 アポイ岳再生員会 2005年に様似町やアポイ岳ファンクラブ、研究者が中心となり設立された団体。アポイ岳を特別天然記念物に指定された1952年の姿に再生することを目的として活動している。オブザーバーとして日高振興局なども入っている。

註2 アポイ環境科学委員会 2015年、様似町がアポイ岳周辺の高山性動植物等の保全対策について科学的に検討し、助言を得るため設置した。高山植物や気候、エゾシカ、ヒメチャマダラセセリなどの専門家とアポイ岳ファンクラブで構成されていた。2021年3月に「特別天然記念物アポイ岳高山植物群落再生事業調査報告書」を発行し、役割を終えた。

様似町アポイ岳とその周辺の蝶類(第2報)

Butterfly fauna of Mt.Apoi and its around area in Samani-cho (Ⅱ), Hokkaido

渡辺康之¹・河野 潤²・永盛俊行³

(Watanabe Yasuyuki¹, Kouno Jyun², Nagamori Toshiyuki³)

はじめに

先に筆者らは「様似町アポイ岳とその周辺の蝶類」について、文献を含めて 2024 年までの記録を『様似郷土館紀要 第5号』にまとめた(渡辺・河野・永盛 2025)¹⁾。2025 年度も引き続き日高山脈襟裳十勝国立公園・特別保護地区と文化庁の特別天然記念物・アポイ岳高山植物群落での昆虫類採取の許可を河野が取り、様似町内の各地で調査を行った。今年度はシロチョウ科スジグロシロチョウとタテハチョウ科ルリタテハの2種類が新たに記録された。これにより様似町での蝶類の記録は合計 91 種になる。また、他にも新たな記録が出たので、併せて報告する。なお、前報で記録の多い種類については掲載していない。

【採取許可番号】

環境省：環北地国許第 2505071 号(日高山脈襟裳十勝国立公園・特別保護地区)

文化庁：7 文庁第 84 号(特別天然記念物・アポイ岳高山植物群落)

北海道日高振興局：日森管第 9-17 号(入林承認)

1. 様似町の蝶類リスト

【アゲハチョウ科】Papilionidae

1. ウスバシロチョウ *Parnassius citrinarius*

観音山：2♂, 9.VI. 2025 (渡辺採集)

前報と同様に観音山でのみ記録された。様似川下流沿いの堤防や河川敷、山麓などに食草とされるケマンソウ科ムラサキケマンが自生するが、本種は確認できなかった。また、近似種のヒメウスバシロチョウも追加記録がない。道道 233 号線沿いの様似川上流部の山間やピンネシリ山登山口付近には、食草とされるケマンソウ科エゾエンゴサクが見られる。

2. オナガアゲハ *Papilio macilentus*

幌満峡(幌満稲荷神社)：3♂, 5.VI. 2025 (渡辺観察)；アポイ岳登山口・旧マムシセンター事務所周辺：♂♀多数, 7~8.VI. 2025 (渡辺観察)；トウキナ沢(標高 200m)：♂♀少数, 9.VI. 2025 (渡辺観察)；新富：1♂, 31.VII. 2025 (河野採集)

2025 年度は各地で多数観察され、アポイ岳登山口付近では植栽されたヤマツツジなどに雌雄が群がって吸蜜していた。様似-新富線沿いのトウキナ沢では、サクラソウ科クリンソウやミツバウツギで吸蜜した。食樹と推定されるミカン科サンショウはアポイ岳登山口付

1. 北海道大学昆虫研究会 OB, 日本鱗翅学会評議員, 日本チョウ類保全協会理事. 2. 北海道大学昆虫研究会 OB, 日本チョウ類保全協会会員. 3. 北海道大学昆虫研究会 OB, 日本チョウ類保全協会会員.

近の他に幌満峡や様似川下～中流部にもあるが、産卵などは観察できなかった。卵や幼虫も未発見である。また、他の地域で食樹とされるミカン科ツルシキミは確認していない。夏型は新富の林道上で、吸水にきた個体が確認された。

3. アゲハ (ナミアゲハ) *Papilio xuthus*

様似川右岸沿い・旧石切り場周辺：1♂, 15.V.2025 (渡辺観察)； 田代：1♂, 17.V.2025 (渡辺観察)；アポイ岳登山口・旧mamシセンター事務所周辺：1♂, 8.VI.2025 (渡辺観察)；幌満自然公園：1♂, 27.VII.2025 (渡辺観察)
本種の記録はこれまで非常に少なかったが、様似川沿いなど低標高地で見られることが分かった。食樹はミカン科のサンショウと推定される。

4. カラスアゲハ *Papilio dehaanii*

アポイ岳登山口・旧mamシセンター事務所周辺：1♂, 6~8.VI.2025 (渡辺観察)；松岡沢：1♂, 9.VI.2025 (渡辺観察)；幌水橋 (幌満川)：1♂, 24.VIII.2025 (渡辺採集)
ミヤマカラスアゲハより数が少ない。8月に夏型も観察された。ミヤマカラスアゲハに混じって水溜まりで吸水したり、ヤマツツジなどで吸蜜する。食樹はミカン科キハダと思われる。

5. ミヤマカラスアゲハ *Papilio maackii*

幌満峡・第2発電所：1♂, 5.VI.2025 (渡辺観察)；アポイ岳登山口・旧mamシセンター事務所周辺：♂♀多数, 6~8.VI.2025 (渡辺観察)；松岡沢：2♂, 5.VI.2025 (渡辺観察)；平宇 (国道336号線沿い)：1♂2♀, 27.VII.2025 (渡辺観察)；ピンネシリ山登山口：1♂, 24.VIII.2025 (渡辺観察)；幌満峡：1♂, 27.VII.2025 (渡辺観察)
2025年度は個体数がたいへん多く、ヤマツツジやオニアザミに群がって吸蜜していた。また、夏型はエゾトリカブトでの吸蜜を観察した。♂は湿地で集団吸水する。夏型は春型より数が少ないが、7~8月に各地で見られ海岸沿いでも確認した。食樹はミカン科キハダで、アポイ岳中腹の登山道沿いに1本だけ樹木名の看板が付けられている。

【シロチョウ科】 Pieridae

1. エゾヒメシロチョウ *Leptidea morsei*

様似川右岸沿い・旧石切り場：1♂, 9.V.2025 (渡辺観察)；田代：1♂2♀, 15.V.2025 (渡辺観察)；岡田：1♀, 9.VII.2025 (河野観察)；岡田：1♀, 19.VIII.2025 (河野観察)
食草のマメ科クサフジは様似川下流周辺の低標高地で普通に見られ、新芽への産卵を観察した。ヒメオドリコソウやオオイヌノフグリ、セイヨウタンポポ、クサフジなどで吸蜜した。

2. スジグロシロチョウ *Pieris melete*

アポイ岳・新道 (標高280m)：1♀, 28.VII.2025 (渡辺採集)
ようやくアポイ岳で本種の夏型が確認された。個体数はエゾスジグロシロチョウに較べると極めて少ない。

3. オオモンシロチョウ *Pieris brassicae*

様似川右岸沿い・旧石切り場：1♂, 9.V.2025 (渡辺撮影)；岡田：1♂, 15.V.2025 (渡辺観察)
モンシロチョウと共に低標高地で見られ、セイヨウタンポポなどで吸蜜した。

【シジミチョウ科】 Lycaenidae

1. ウラゴマダラシジミ *Artopoetes pryeri*
岡田：1♂, 9.VII.2025 (河野採集)；新富：1ex, 25.VII.2025 (高橋真美撮影)
様似川沿いにて少ないながら見られた。イボタノキは多いが個体数は少ない。
2. オナガシジミ *Araragi enthea*
観音山：多数, 31.VII.2025 (河野観察)；観音山：数卵, 29.X.2025 (河野撮影)
食樹のクルミ科オニグルミは各地に見られるが、本種の卵は少ない。成虫については、観音山にて樹上で群れ飛んでいるのを確認した。
3. オオミドリシジミ *Favonius orientalis*
平宇：1♂, 29.VI.2025 (河野観察)；アポイ岳・5合目休憩小屋前：1♂, 6.VII.2025；
1♂, 28.VII.2025 (渡辺観察)
アポイ岳の山頂や馬の背などで占有行動をとるのは、ほとんど本種であることが多い。
4. メスアカミドリシジミ *Chrysozephyrus smaragdinus*
アポイ岳第5休憩所：2♂, 5.VII.2025 (渡辺採集)
午前8時53分に第5休憩所(標高280m)近くの日が当たる空間で♂が占有行動をとり、
2頭が卍巴飛行をしていた。
5. カラスシジミ *Fixsenia w-album fentoni*
幌満峡：1♂, 7.VII.2025 (河野観察)
幌満峡にてノリウツギで吸蜜しているのを確認した。
6. ベニシジミ *Lycaena phlaeas daimio*
トウキナ沢：2♂1♀, 9.VI.2025 (渡辺採集)
平地に多いが、山地でも見られた。
7. スギタニルリシジミ *Celastrina sugitanii*
松岡沢：1♂, 15.V.2025 (渡辺観察)；エサマンベツ橋(道道233号線)：1♂, 15.V.2025
(渡辺観察)
♂が山地の林道や道路上で吸水していた。ルリシジミと混棲するが、本種は非常に少ない。
8. ゴマシジミ *Phengaris teleius*
幌満峡：1♂, 27.VII.2025；1♀, 24.VIII.2025 (渡辺観察)；アポイ岳・馬の背：1♂, 28.VII.2025
(渡辺観察)
幌満峡では道路整備で道沿いの食草のバラ科ミヤマワレモコウが刈られ、個体数が少なかった。また、アポイ岳～吉田岳ではエゾシカによりミヤマワレモコウが食べられ、本種も少なくなっている。5合目休憩小屋の下部にある再生実験地のシカ柵内でも2025年度は見られなかった。

【マダラチョウ亜科】 Dananinae

1. アサギマダラ *Parantica sita nipponica*
アポイ岳6合目下。1♂, 25.VIII.2025 (渡辺観察)
6合目の樹林帯の岩場を下っている時に、上部から高さ5mぐらいを下降して5合目の休憩小屋の方へ向かった。観音山には吸蜜植物のキク科ヒヨドリバナの一種が咲いており本種が飛来する可能性があるが、2025年も見られなかった。かつて同地では成虫が採集され

ている。

【タテハチョウ亜科】Nymphalinae

1. ヤマウラギンヒョウモン *Fabriciana nagiae*

アポイ岳・7合目：1♂1♀，7.VII. 2025（渡辺観察）；6合目上の岩場：1終齢幼虫（ただし寄生のため羽化せず、ヤマカサトかは不明），7.VII. 2025（渡辺採集）

高山帯の岩場を歩行中の終齢幼虫を見つけたが、寄生されていたので羽化せずヤマカサトかは不明である。最近になってウラギンヒョウモンは3種類に分けられ、このうちヒメウラギンヒョウモンはDNA解析や交配実験により、サトウラギンヒョウモンに含まれるとされる（伊藤ほか 2025）²⁾、（北原ほか 2025）³⁾。しかし、サトとヤマの種の判別が斑紋からだけでは難しいので、今後とも詳しく調べる必要がある。

2. メスグロヒョウモン *Damora sagana*

アポイ岳・6合目下：1♀，5.VIII. 2025（渡辺観察）；幌満お花畑分岐：1ex. 終齢幼虫，6.VII.2025（渡辺観察）；ピンネシリ山登山口：1♂，14.VIII. 2025（河野観察）；ピンネシリ山登山口：1♀，24.VIII. 2025（渡辺観察）

イブキジャコウソウやハンゴンソウで吸蜜した。終齢幼虫はアポイタチツボスミレを摂食していた。個体数は少ない。

3. アカマダラ *Araschnia levana*

岡田：1♂，30.IV. 2025（鈴木利文観察）；田代橋：1♂，15.V. 2025（渡辺採集）；滝ノ沢：1♂，9.V.2025（渡辺観察）；岡田：1♂，9.VII. 2025（河野観察）

従来記録が少なかったが、様子川下流周辺ではサカハチチョウと混棲する。山地ではほとんど見られない。

4. サカハチチョウ *Araschnia burejana*

松岡沢：1♂，15.V. 2025（渡辺採集）；トウキナ沢：1♀，9.VI.2025（渡辺採集）；幌満峡：1♂，28.VII. 2025（渡辺観察）

平地ではアカマダラと混棲するが、山地ではほとんど本種のみが棲息する。夏型も見られた。

5. シータテハ *Polygonia c-album hamigera*

幌満峡：1ex, 29.VII. 2025（河野観察）

幌満峡にて新生個体が確認された。

6. ルリタテハ *Kaniska canace*

道道233号の支線林道（ヌキベツ川沿い：標高130m）：1♀，9.V. 2025（渡辺観察）；幌満峡（不動沢の橋）：1♀，12.V. 2025（渡辺撮影）

2024年まではまったく記録されなかったが、2025年は越冬後の個体が5月に少数見られた。しかし、7月に出現すると思われる新生個体は確認できなかった。

7. キベリタテハ *Nymphalis antiopa asopos*

トウキナ沢：1♀，15.V. 2025（渡辺観察）；幌満峡：1♀，12.V. 2025（渡辺観察）；

アポイ岳登山口：1♂（新生個体），3.VIII.2025（河野観察）；幌満ダム湖沿いの林道：1♂（新生個体），24.VIII.2025（渡辺観察）

2025年7～8月には北海道各地で本種がたくさん見られたが、アポイ岳や幌満峡周辺では

少なかった。本種の確認には誘因トラップが有効かもしれない。

8. コヒオドシ *Aglais urticae*

アポイ岳・7合目：1 ex., 11.VII.2025 (河野観察)

本種は少ないながら見られる。

9. ヒメアカタテハ *Vanessa cardui*

アポイ岳・7合目～馬の背：3 exs., 5,24,28.VIII.2025 (渡辺観察)；日高耶馬溪：1ex., 24.VIII.2025 (渡辺観察)

ヒロハヘビノボラズやキンロバイ、イブキジャコウソウ、セイヨウタンポポなど吸蜜する。5月から9月まで見られ、移動性がある。

【ジャノメチョウ亜科】 Satyrinae

1. ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus*

様似川右岸沿い・旧石切り場：数個体. 24.VIII. 2025 (渡辺観察)

5月下旬から出現するが、8～9月まで見られる。2化目が出ているかどうかは不明。

2. ベニヒカゲ *Erebia neriene scoparia*

アポイ岳～吉田岳の稜線：少数, 22.VIII.2025 (渡辺観察)；幌満峡：少数, 24.VIII. 2025 (渡辺観察)

2025年度は全体的に個体数が少なかった。キンロバイやイブキジャコウソウ、ハンゴンソウなどで吸蜜する。

3. オオヒカゲ *Ninguta schrenckii*

様似川右岸沿い・旧石切り場：3♂2♀. 24.VIII. 2025 (渡辺採集・観察)

従来記録が少なかったが、様似川支流の沢沿いの湿地で多数の個体が観察された。夕方には明るい林縁に出て、フキの葉上などに止まった。また、ミズナラなどの樹液にも飛来する。

4. キマダラモドキ *Kirinia fentoni*

観音山：1♀, 25.VIII.2025 (渡辺採集)；観音山：1♀, 9.IX. 2025 (河野観察)

チャシ跡の近くにあるミズナラの大木の樹幹に止まった。カムイチャシ記念碑に止まっているものを撮影した。同地では他にも複数観察された。

5. シロオビヒメヒカゲ *Coenonympha hero latifasciata*

アポイ岳・5合目：1♂, 3.VI. 2025 (渡辺観察)；7合目上 (2019年ハイマツ伐採跡地) 1蛹, 7.VI. 2025 (渡辺観察)

7合目上ではエゾアカヤマアリが蛹を数頭で運んでいた。近くで蛹化していたと思われる。

【セセリチョウ科】 Hesperiidae

1. キバネセセリ *Burara aquilina chrysaeglia*

アポイ岳・登山口：1♂, 7.VII. 2025 (渡辺観察)；馬の背：♀多数, 28.VII. 2025 (渡辺観察)；平宇 (国道336号線沿い)：1♀, 27.VII. 2025 (渡辺観察)

イブキジャコウソウで多くの新鮮な♀が群がって吸蜜していた。2025年度は多数の個体が各地で観察され、海岸沿いでも見られた。かつて、旧 JR 様似駅前でも多数の個体が7月下旬に集団で移動するのを観察している。大発生時には集団をつくり移動するようであ

る。

2. ヒメチャマダラセセリ *Pyrgus malvae unomasahiroi*

アポイ岳・7合目～馬の背：数頭, 8.V. 2025 (河野観察) ; ♂多数, 4♀, 12.V. 2025 (渡辺観察) ; ♂少数, ♀少数, 10.VI. 2025 (渡辺観察) ; 1♀, 19.VI. 2025 (河野観察)

初見日は5月8日、終見日は6月19日であった。保管していた蛹の棲息地への設置が遅れたため、例年より羽化が遅くなったようである。5月12日午後0時37分には交尾が観察され、交尾時間は1時間22分だった。6月にはキンロバイ、エゾコウゾリナ、エゾタカネニガナ、タカネオミナエシなどで吸蜜した。

3. ギンイチモンジセセリ *Leptalina unicolor*

アポイ岳・7合目下：1♀, 10.VI. 2025 (渡辺採集)

本種の記録はこれまで非常に少なく、渡辺はアポイ山系で初めて本種を採集した。この個体はお花畑で高山植物であるキク科エゾコウゾリナで吸蜜していたが、本来の棲息地は不明である。

4. カラフトタカネキマダラセセリ *Carterocephalus silvicola*

アポイ岳・新道：2♂, 8, 10.VI. 2025 (渡辺観察) ; 7合目上：1♀, 10.VI. 2025 (渡辺観察)

幌満峡では最近あまり見られず、道路工事や崖崩れの影響で環境が悪くなったのかもしれない。アポイ岳のお花畑では♀が湿地で吸水していた。

5. キマダラセセリ *Potanthus flavus*

日高耶馬溪：1ex, 17.VII. 2025 (河野観察) ; アポイ岳馬の背：1ex, 18.VII. 2025

(河野観察) ; 幌満峡：1♀, 28.VII. 2025 (渡辺採集)

本種の記録は大変少ないが、2025年は各地で観察された。アポイ岳・馬の背ではイブキジャコウソウ、幌満峡ではヤマハギの一種で吸蜜していた。

6. イチモンジセセリ *Parnara guttata*

幌満峡：1ex, 29.IX. 2025 (高橋真美観察) ;

2025年は個体数が少なかった。ヤマハハコで吸蜜していた。

2. 考察

スジグロシロチョウとルリタテハの2種が新たに記録されたので、様似町の蝶類の記録は合計91種になる。このうち現在でも確実に様似町内に分布しているのは70種類程度と推定される。また、かつて記録されているヘリグロチャバネセセリなどの再確認も必要である。

3. 謝辞

初めに紀要への執筆を勧めていただいた様似郷土館の榎本尊氏に感謝申し上げます。また、鈴木利文氏、高橋真美氏の両氏には快くデータを提供頂き、田中正人氏をはじめアポイ岳ファンクラブの会員の方々には調査に際して大変お世話になり、お礼を申し上げます。保護指定地域での採取許可の取得に関しては、様似町教育委員会ならびに文化庁、環境省日高山脈襟裳十勝国立公園の新ひだか自然保護管事務所の関係者の方々にお世話になり、感謝いたします。

【参考・引用文献】

1. 渡辺康之・河野 潤・永盛俊行(2025)「様似町アポイ岳とその周辺の蝶類」．様似郷土館紀要(5)：47-60.
2. 伊藤建夫ほか(2025)「ヒメウラギンヒョウモンの正体を探る（Ⅰ）現地調査とDNA解析結果」．日本鱗翅学会大会講演．講演要旨集：32.
3. 北原 曜ほか(2025)「ヒメウラギンヒョウモンの正体を探る（Ⅱ）サト・ヤマとの交配実験」．日本鱗翅学会大会講演．講演要旨集：33.



図 1. オナガアゲハ♂ 2025. 6. 8 (渡辺撮影)



図 2. オナガアゲハ♀ 2025. 6. 8 (渡辺撮影)



図 3. オナガアゲハ♂ (手前) とミヤマカラスアゲハ♂ (奥)
2025. 7. 31 (河野撮影)



図 4. ミヤマカラスアゲハ♂ (手前) とカラスアゲハ♂ (奥)
2025. 6. 9 (渡辺撮影)

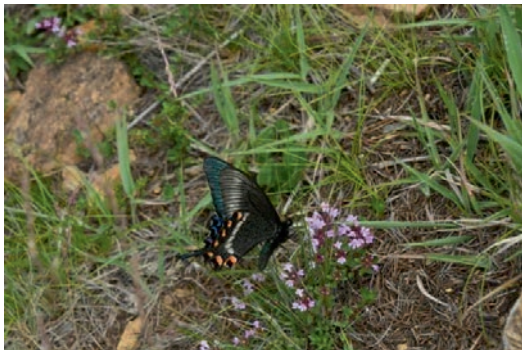


図 5. ミヤマカラスアゲハ♂ 2025. 7. 6 (渡辺撮影)

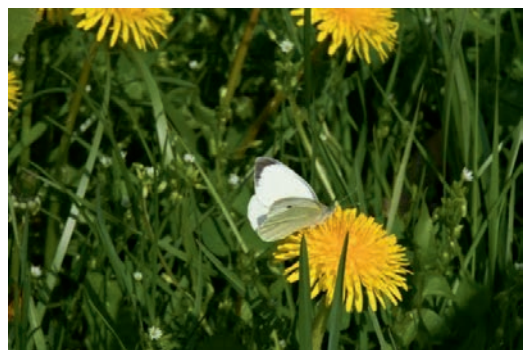


図 6. オオモンシロチョウ♂ 2025. 5. 9 (渡辺撮影)



図 7. エゾヒメシロチョウ♂ 2025. 5. 15 (渡辺撮影)



図 8. ウラゴマダラシジミ 2025. 7. 25 (高橋真美撮影)



図 9. オオミドリシジミ 2025. 6. 29 (河野撮影)



図 10. カラスシジミ 2025. 7. 7 (河野撮影)



図 11. ゴマシジミ 2025. 7. 9 (河野撮影)

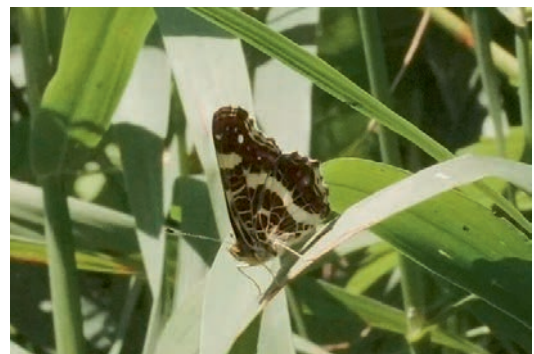


図 12. アカマダラ 2025. 7. 9 (河野撮影)



図 13. サカハチチョウ♀ 2025. 6. 9 (渡辺撮影)

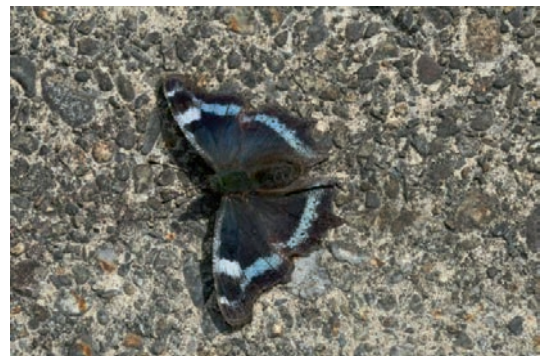


図 14. ルリタテハ♀ 2025. 5. 12 (渡辺撮影)



図 15. キベリタテハ♀ 2025. 5. 12 (渡辺撮影)



図 16. キベリタテハ 2025. 8. 3 (河野撮影)



図 17. シータテハ 2025. 7. 29 (河野撮影)

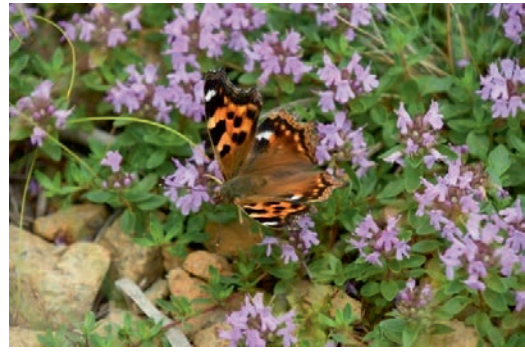


図 18. エルタテハ♀ 2025. 7. 7 (渡辺撮影)



図 19. メスグロヒヨウモン♂ 2025. 8. 14 (河野撮影)

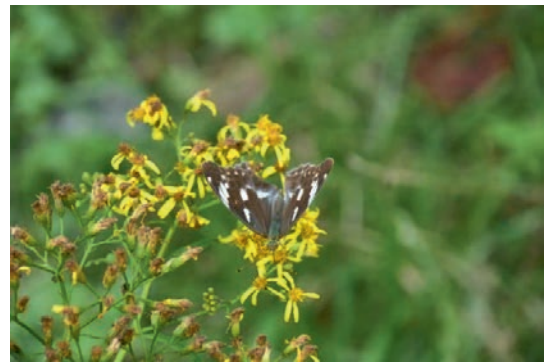


図 20. メスグロヒヨウモン♀ 2025. 8. 24 (渡辺撮影)

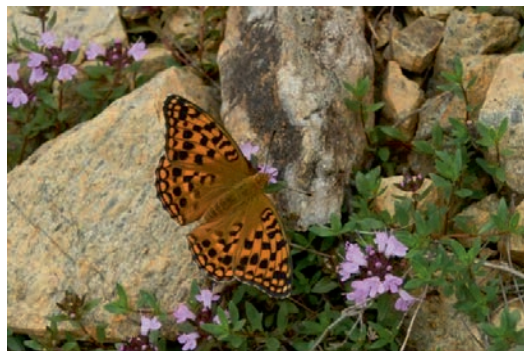


図 21. ヤマウラギンヒヨウモン♀ 2025. 7. 7 (渡辺撮影)



図 22. オオヒカゲ♀ 2025. 8. 23 (渡辺撮影)



図 23. オオヒカゲ♀ 2025. 8. 23 (渡辺撮影)

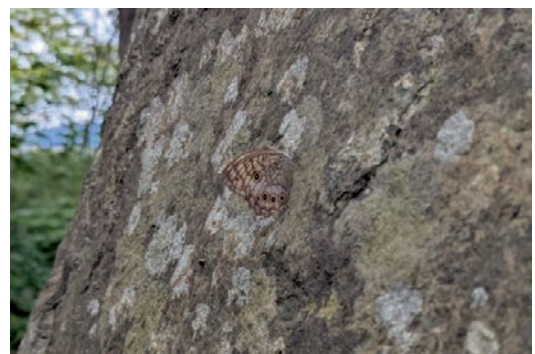


図 24. キマダラモドキ♀ 2025. 9. 9 (河野撮影)



図 25. ギンイチモンジセセリ♀ 2025. 6. 10 (渡辺撮影)

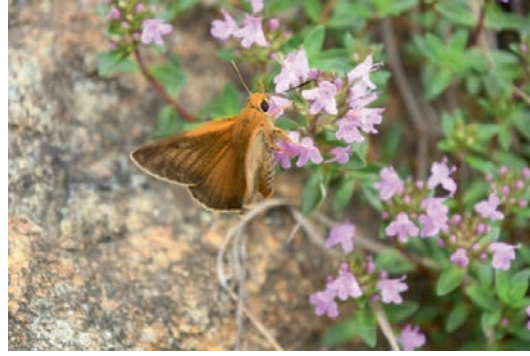


図 26. キバネセセリ♀ 2025. 7. 28 (渡辺撮影)



図 27. キマダラセセリ 2025. 7. 17 (河野撮影)



図 28. イチモンジセセリ 2025. 9. 24 (高橋真美撮影)



図 29. ヒメチャマダラセセリ交尾 2025. 5. 13 (河野撮影)



図 30. ヒメチャマダラセセリ♀ 2025. 5. 15 (河野撮影)



図 31. ヒメチャマダラセセリ♂初見 2025. 5. 8 (河野撮影)



図 32. ヒメチャマダラセセリ終見 2025. 6. 19 (河野撮影)

様似町におけるカマキリ 3 種の記録

(Records of three species of Mantis in Samani)

榎本 尊 (Enomoto Takashi)

1. はじめに

日本国内には 3 科 7 属 13 種のカマキリが記録されている (中峰 2016, 山本ら 2025)。その中でも道内ではオオカマキリ、ウスバカマキリ、コカマキリ、チョウセンカマキリ、ハラビロカマキリ、ムネアカハラビロカマキリの 6 種が記録されている (柏崎 1999, 堀 2006, 前田 2000, 小川 2013, 坂田 2013, 大井 2017, 井村 2018, 佐藤 2021, 本部 2022, 遠藤 2025, 榎本ら 2025, 山本ら 2025)。様似町では 2023 年と 2024 年にオオカマキリが記録された (榎本ら 2025)。本報告では 2025 年に町内で新たに発見したハラビロカマキリとウスバカマキリの記録とオオカマキリの追加記録や町内の発生状況について報告する。

ウスバカマキリは昭和 40 年代以降に北海道南部での分布が記録されているが、近年の生息状況は不透明であった (山本ら 2025)。2023 年には倶知安町初記録となる 1 個体が採集されているが、移入個体の可能性が指摘されている (山本ら 2025)。本種は国内では北海道から八重山諸島まで広く分布し、草地を好んで生息する (大島 2018, 大島・瑤寺 2019, 是枝 2020, 中峰 2022)。前脚基節内側の楕円形の黒斑を持つことが特徴である (是枝 2020, 中峰 2022)。

道内のハラビロカマキリは移入個体と考えられている (柏崎 1999, 中峰 2022, 山本ら 2025)。本州以南が生息域であり、樹上性で林縁等に生息する (間野・宇野 2014, 大島 2018, 大島ら 2020, 中峰 2022)。1998 年に札幌市中央区で踏みつぶされた個体が記録されているが、オフィス街であった点などから移入個体と予想されている (柏崎 1999)。本記録は道内では 27 年ぶり、2 例目のハラビロカマキリの記録と思われる。外来種のムネアカハラビロカマキリとは前脚基部のこぶ状突起が大きく、3～4 個ある点や前胸腹板が薄い黄色である点から区別できる (間野・宇野 2014, 中峰 2022)

2. 採集記録

① ウスバカマキリ (図 1)

採集日：2025 年 8 月 13 日

採集場所：北海道様似郡様似町西町 46 親子岩ふれあいビーチ (42.1326078, 142.9108885)

採集者：寺井 漣

採集方法：街灯に飛来した 1 個体を採集

成長段階：成虫

性別：メス

備考：8 月 14 日に様似郷土館へ提供。10 月 26 日に生体を殺虫し標本とした。

飼育期間中に 2 度の産卵 (卵嚢は 12 月 3 日より外気温の野外倉庫内で管理)。

② ハラビロカマキリ (図2)

採集日：2025年9月24日

採集場所：北海道様似郡様似町栄町 様似川右岸の道路わき (42.1302390, 142.9347115)

採集者：榎本 尊

採集方法：草地を捕虫網でスウィーピングして1個体を採集

成長段階：幼虫

性別：メス

備考：採集後はゴキブリ(レッドローチ)を与えて飼育し、2回の脱皮を経て成虫となった。
未交尾のため産卵はせず、11月5日に生体を殺虫し標本とした。

③ オオカマキリ (図3、4)

オオカマキリ生体については2025年に計13個体が目撃され、8個体が郷土館へ提供された(表1, 図3)。採集個体数が多いため、内訳は表1をご参照ください。

No	月日	住所	地点名	緯度	経度	採集方法	数	成長段階	採集者	備考
1	7月26日	様似郡様似町栄町	様似川右岸 道路わき草地	42.1303071	142.9353382	捕虫網	1	幼虫(1~2齢)	榎本 尊	カンカン講座にて
2	7月26日	様似郡様似町栄町	様似川右岸 道路わき草地	42.1302104	142.9345932	捕虫網	1	幼虫(1~2齢)	榎本 尊	カンカン講座にて
3	7月26日	様似郡様似町栄町	様似川右岸 道路わき草地	42.1302104	142.9345932	捕虫網	1	幼虫(1~2齢)	榎本 尊	カンカン講座にて
4	7月26日	様似郡様似町栄町	様似川右岸 道路わき草地	42.1302104	142.9345932	×	1	幼虫(1~2齢)	榎本 尊	本個体には採集前に逃げられた
5	8月15日	様似郡様似町栄町	アボイ火まつり倉庫	42.1307057	142.935486	手	1	終齢幼虫	新出 拓海	町職員が採集。郷土館で榎本が飼育し9月17日羽化
6	9月17日	様似郡様似町栄町	様似小学校音楽室の窓	43.1319758	142.9358578	手	1	成虫	坂本 一将	小学生が捕獲、保護者を通じて郷土館へ。1度産卵
7	9月24日	様似郡様似町栄町	様似川右岸 道路わき草地	42.1303364	142.9336105	捕虫網	1	終齢幼虫	榎本 尊	採集後、郷土館で飼育し成虫から種同定
8	9月24日	様似郡様似町栄町	様似川右岸 道路わき草地	42.130288	142.9339719	捕虫網	1	終齢幼虫	榎本 尊	採集後、郷土館で飼育し成虫から種同定
9	9月24日	様似郡様似町栄町	様似川右岸 道路わき草地	42.1302519	142.9344872	×	1	終齢幼虫	榎本 尊	発見も捕虫網から逃げられた
10	8月25日	様似郡様似町大通2丁目	セブンイレブン様似大通2丁目店 駐車場	42.126776	142.9367698	手	1	成虫	小学生	情報のみ提供
11	9月26日	様似郡様似町平宇	アボイ山麓パークゴルフ場	42.1089511	142.984376	×	1	成虫	町外の方	飛翔する大型のカマキリを目撃、情報提供のみ
12	9月27日	様似郡様似町栄町	様似川右岸 道路わき草地	42.1320963	142.9376382	手	5	成虫	小学生	保護者より情報のみ提供
13	10月31日	様似郡様似町大通1丁目	様似町役場玄関	42.127608	142.9340209	手	1	成虫	榎本 尊	町民が発見し役場職員を通じ郷土館へ連絡

表1. 様似町内で採集または発見されたオオカマキリの記録

オオカマキリの卵囊については2024年12月12日に様似川で採集されており、野外での繁殖が確認された(榎本ら2025)。採集した卵囊は様似郷土館倉庫(郷土館駐車場内にある倉庫で、内部は外気温下の環境)でプラスチック製の昆虫飼育容器に入れて越冬させた。2025年4月1日に郷土館室内に移し、5月20日までは卵囊に変化は見られなかったが、5月21日に孵化が始まり、計318個体の幼虫が生まれた(図4A~C)。一部個体は飼育し、残りは液浸標本とした(図4D)。

2025年12月3日と5日には昨年に引き続き様似町立幼児センターとのジオ学習「冬の昆虫観察会」の中で、オオカマキリの卵囊探しを実施した(認定こども園様似町立幼児センター2025, 図3E)。様似川右岸の河川敷(42.1300724, 142.9353036)40m×9mの範囲で計19個の卵囊を発見した(図3F)。採集した卵囊は撮影・計測後、様似郷土館倉庫にて越冬管理をしている。

※カマキリ3種の採集個体、飼育個体については全て様似郷土館にて乾燥標本として収蔵している。

3. 考察

ウスバカマキリは様似町西町の親子岩ふれあいビーチの街灯で採集された。付近には親子岩ふれあいビーチキャンプ場が併設されており、夏場には道内外から来町した観光客がテント泊をしている(様似町 2023)。採集個体は本個体 1 個体のみであり、榎本個人によるビーチ周辺での昆虫調査では追加個体は確認できなかったことから、人為的に移入した個体の可能性が高い。キャンプ場利用客や日中の観光客の物資に紛れていた個体が夜間に街灯へと飛来したと思われる。鹿児島県では魚類相調査で使用されたヘッドライトへの誘引個体が採集されている(是枝 2020)。本種における走光性は強いと考えられる(大島・瑤寺 2019, 大島ら 2020)。飼育中には 2 度の産卵をしており、卵嚢は野外倉庫にて越冬管理をしている。来春以降に卵嚢の孵化の有無を検証する。様似町と隣接するえりも町でも 2025 年 8 月 26 日と 10 月中旬に計 2 個体のウスバカマキリが記録されている(えりも町郷土資料館 2025)。環境省レッドリストでは本種は情報不足とされており、道内での分布状況も単発的な記録にとどまり、その生息状況は不明瞭である(環境省 2019, 山本ら 2025)。本種の道内での生息状況を把握する上でも、日高地方での本種の今後の発生状況も含めて注視していきたい。

ハラビロカマキリは幼虫の採集場所が様似川河川敷であり、オオカマキリと同様に人為的に卵嚢を設置された可能性が考えられる(榎本ら 2025)。2024 年には幼児センターにて採集・飼育された 1 個体に腹部が背面側に曲がった個体があったことを職員より聞いている。残念ながら本個体は羽化前に死亡してしまい標本は残っていないため、種同定はできていないが、ハラビロカマキリの幼虫の可能性はある。様似町での本種の確実な記録は 1 個体のみであり、定着はしていないと思われる。道内でも記録の少ない本種の状況把握のためにも、今後も様似川周辺での昆虫調査を継続していきたい。

2023 年、2024 年の様似町でのオオカマキリの記録は栄町の様似川周辺のみであった(榎本ら 2025)。しかし、2025 年には大通 1 丁目、2 丁目、平宇とその生息域が拡大している(表 1)。目撃情報のみではあるものの、平宇での記録は既産地よりも直線距離で約 4.6km も東に位置する。12 月の調査では様似川の河川敷で 19 個の卵嚢が非常に高密度で発見された(図 3)。様似町ではオオカマキリが確実に定着し、個体数を増やし、その生息域を年々拡大中である(表 1, 図 3, 4)。2025 年は道内でのオオカマキリの発見例が急増している(堀・中森 2026, 北海道新聞 2025)。日高地方でのカマキリの目撃情報も多数様似郷土館に寄せられている。オオカマキリの生息状況やその影響については今後の野外調査や飼育実験によって明らかにしていきたい。

4. 謝辞

様似町内におけるカマキリの採集や目撃情報を提供いただいた方々に感謝申し上げます。特にウスバカマキリの生体を提供していただいた寺井漣氏。ジオ学習において多数の卵嚢発見にご協力いただいた町立様似幼児センターの園児及び職員。カンカン講座でご協力いただいた水永優紀学芸員、小川静香司書及び参加者。オオカマキリ生体を提供していただいた新出拓海氏及び坂本一将氏。ハラビロカマキリの情報提供をくださった堂元菜々実学芸員。以上の方々に感謝申し上げます。

引用文献

井村洋介 2018 「札幌市でコカマキリを採集」. *jezoensis*, 44, 31.

榎本尊・澤井日出晴・猪股拓也 2025 「様似町におけるオオカマキリの採集記録について」. 様似郷土館紀要, 5, 33-38

えりも町郷土資料館ほろいずみ・水産の館 2025 「教えて！カマキリ情報！【続編】」. ほろいずみニ

- ユース, 184, 1.
- 遠藤友章 2025 「安平町早来北進でオオカマキリを撮影」. *jezoensis*, 52, 80.
- 大井伸一 2017 「伊達市上長和でオオカマキリを採集」. *jezoensis*, 43, 119.
- 大島千幸 2018 「沖縄島北部属島におけるカマキリ目6種の初記録」. *昆虫 (ニューシリーズ)*, 21(2), 151-160.
- 大島千幸・瑤寺裕 2019 「沖縄県伊江島におけるカマキリ目5種の初記録」. *Fauna Ryukyuna*, 51, 1-7.
- 大島千幸・林幸希・寺井純汰・工藤翔里 2020 「宮古諸島におけるカマキリ目6種の記録とUV-LEDライト誘殺灯から得られたカマキリ類について」. *Fauna Ryukyuna*, 57, 1-11.
- 小川浩太 2013 「コカマキリの札幌市初採集記録」. *jezoensis*, 39, 25.
- 柏崎昭 1999 「札幌市中央区におけるハラビロカマキリの記録」. *jezoensis*, 26, 181.
- 環境省 2019 「環境省レッドリスト」. <https://www.env.go.jp/press/files/jp/110615.pdf> (2026年3月1日閲覧).
- 是枝伶旺 2020 「標本に基づく鹿児島県本土初記録のウスバカマキリ」. *Nature of Kagoshima*, 46, 567-568.
- 坂田潤一 2013 「せたな町北檜山区兜野でオオカマキリの観察」. *jezoensis*, 39, 108.
- 佐藤雅彦 2021 「利尻島西部の倉庫にて発見された外来カマキリ」. *利尻研究*, 41, 27-29.
- 様似町 2023 「第5章観光 親子岩ふれあいビーチ」. *新様似町史第2巻*, 453-454.
- 中峰空 2016 「蠟螂目 (カマキリ目)」. *日本昆虫目録第3巻*, 72-74.
- 中峰空 2022 「カマキリ目」. *学研の図鑑 LIVE 新版昆虫*, 66.
- 認定こども園様似町立幼児センター 2025 「心のまなざし1月号」. *幼児センターだより*, 2.
- 北海道新聞 2025 「ススキノでカマキリ発見 札幌や北広島など目撃100件超え 越冬し世代交代 「北海道に定着」か」. <https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1225865/> (2026年3月1日閲覧).
- 堀繁久 2006 「増補改訂版 探そう!ほっかいどうの虫」. 北海道新聞社, 87.
- 堀繁久・中森達 2026 「2025年に北海道で大発生したオオカマキリについて」. *北海道博物館研究紀要*, 11, 21-42.
- 本部哲矢 2022 「北海道士別市で発見されたチョウセンカマキリの収集記録」. *士別市立博物館報告*, 39, 53-55.
- 前田俊信 2000 「乙部町でのオオカマキリの記録」. *jezoensis*, 27, 61.
- 間野隆裕・宇野総一 2014 「豊田市におけるハラビロカマキリとムネアカハラビロカマキリの分布動態と形態について」. *矢作川研究*, 18, 41-48.
- 山本亜生・小田桐亮・山崎真実 2025 「道央地域におけるカマキリ目の記録」. *小樽市総合博物館紀要*, 38, 7-11.

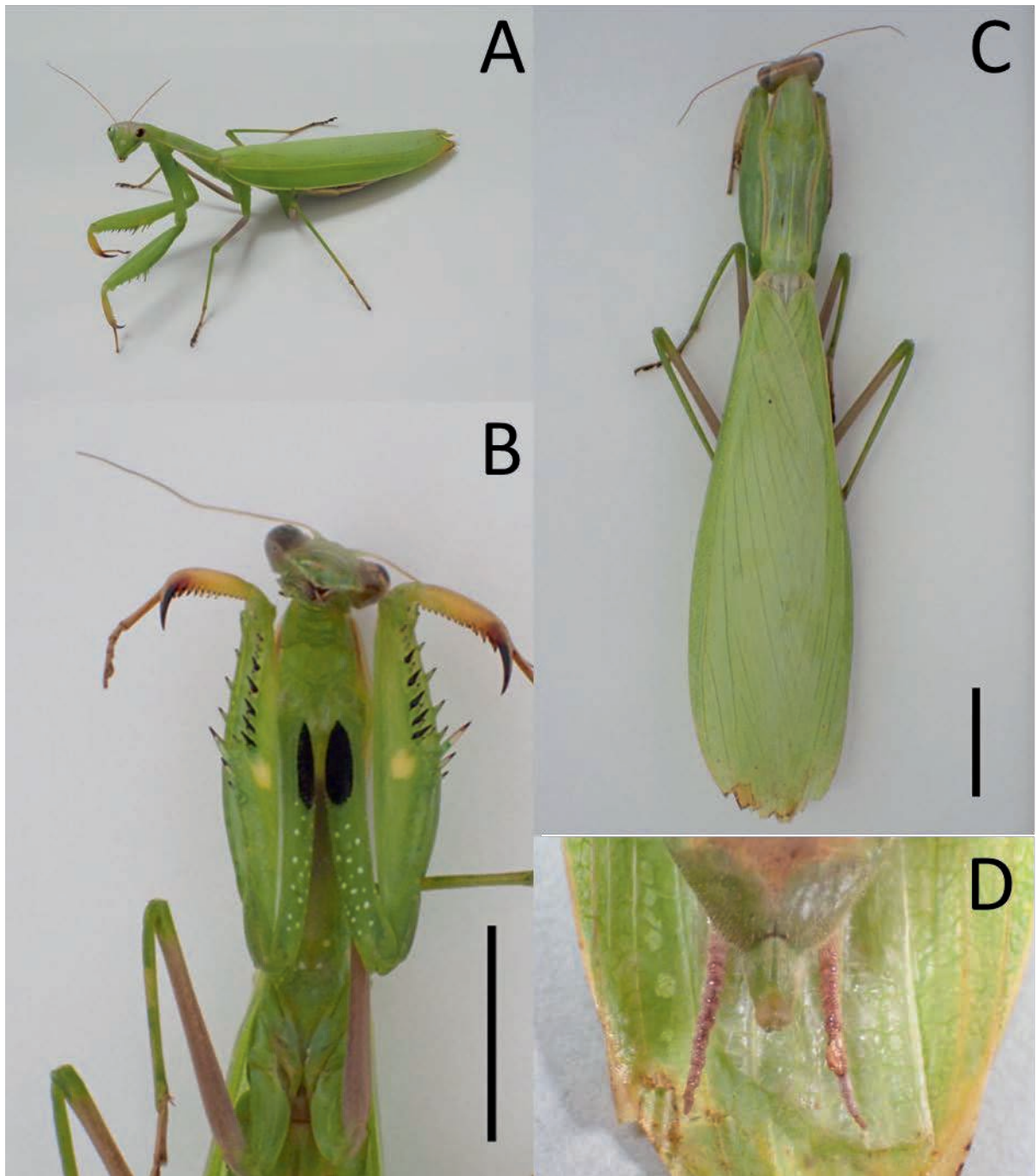


図1. ウスバカマキリ.

A) 生体写真. 2025年8月13日に様似町西町の親子岩ふれあいビーチの街灯で寺井漣氏が採集. 体長69 mm. B). 腹面の写真 (黒線は10 mm) C). 背面の写真 (黒線は10 mm) D) 腹部末端 (メス).

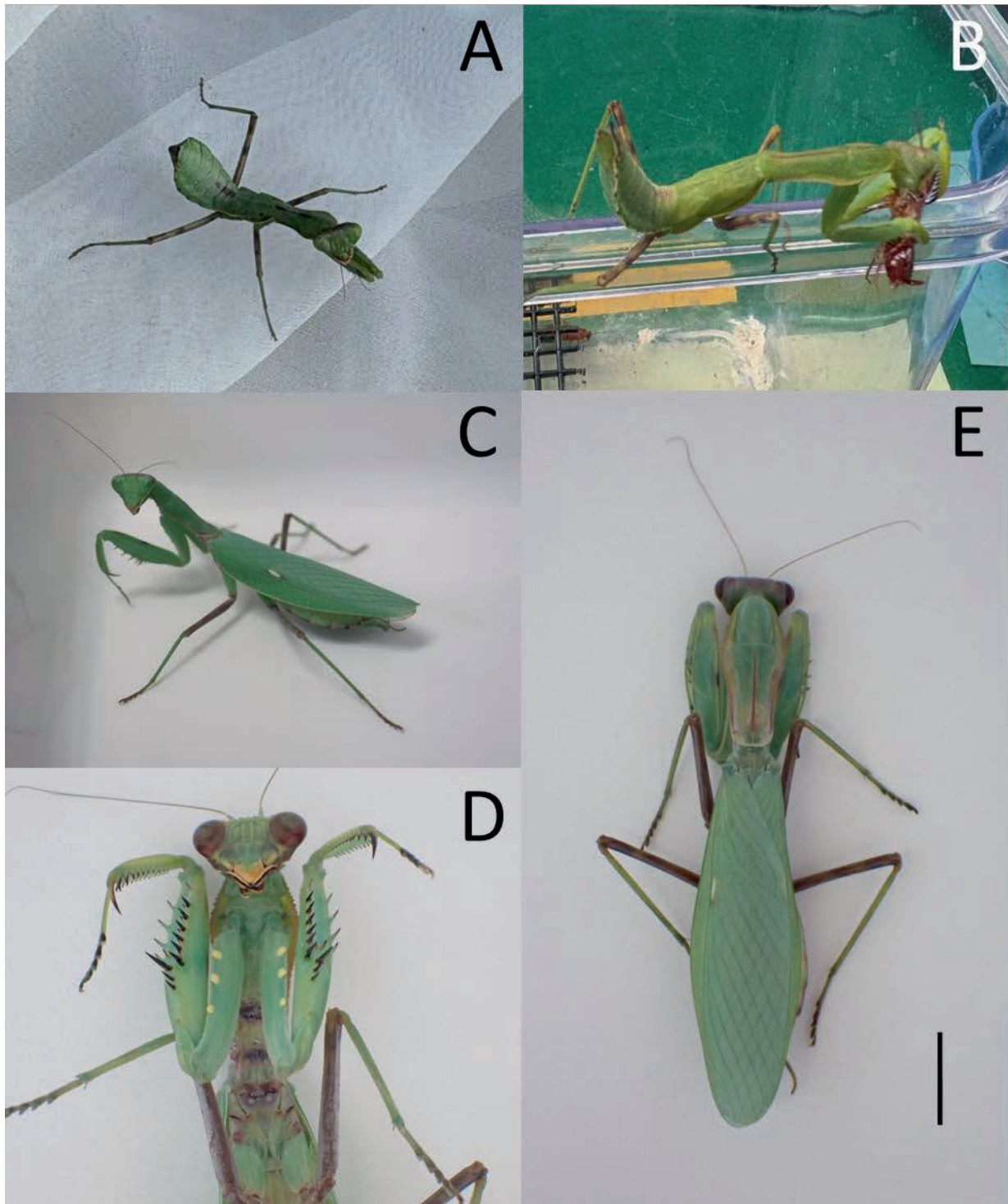


図2. ハラビロカマキリ.

A)ハラビロカマキリの幼虫. 2025年9月24日に様似町栄町の様似川右岸河川敷にて榎本尊が捕虫網にて採集. B)餌のゴキブリ(レッドローチ)を捕食する様子. C)成虫. 採集個体を飼育し郷土館にて羽化. 体長は59mm. D)成虫の腹面. E). 成虫の背面



図3. 様子町内でのオオカマキリ.

A) 2025年7月26日に様子川沿いで実施したカンカン講座「様子小学校周辺の生きものさがし」の様子. B) カンカン講座で発見したオオカマキリの幼虫. C) 2025年10月31日に様子町役場の玄関で町民が発見し、役場職員より連絡があり榎本が採集. D) 2025年9月24日に様子川河川敷で採集した終齢幼虫. E) 2025年12月3日と5日に様子町立幼児センターのジオ学習「冬の昆虫観察会」にて年長、年中と共に様子川河畔林で卵囊の観察及び採取をする様子. F) 写真中央は様子川河川敷で発見したオオカマキリの卵囊.

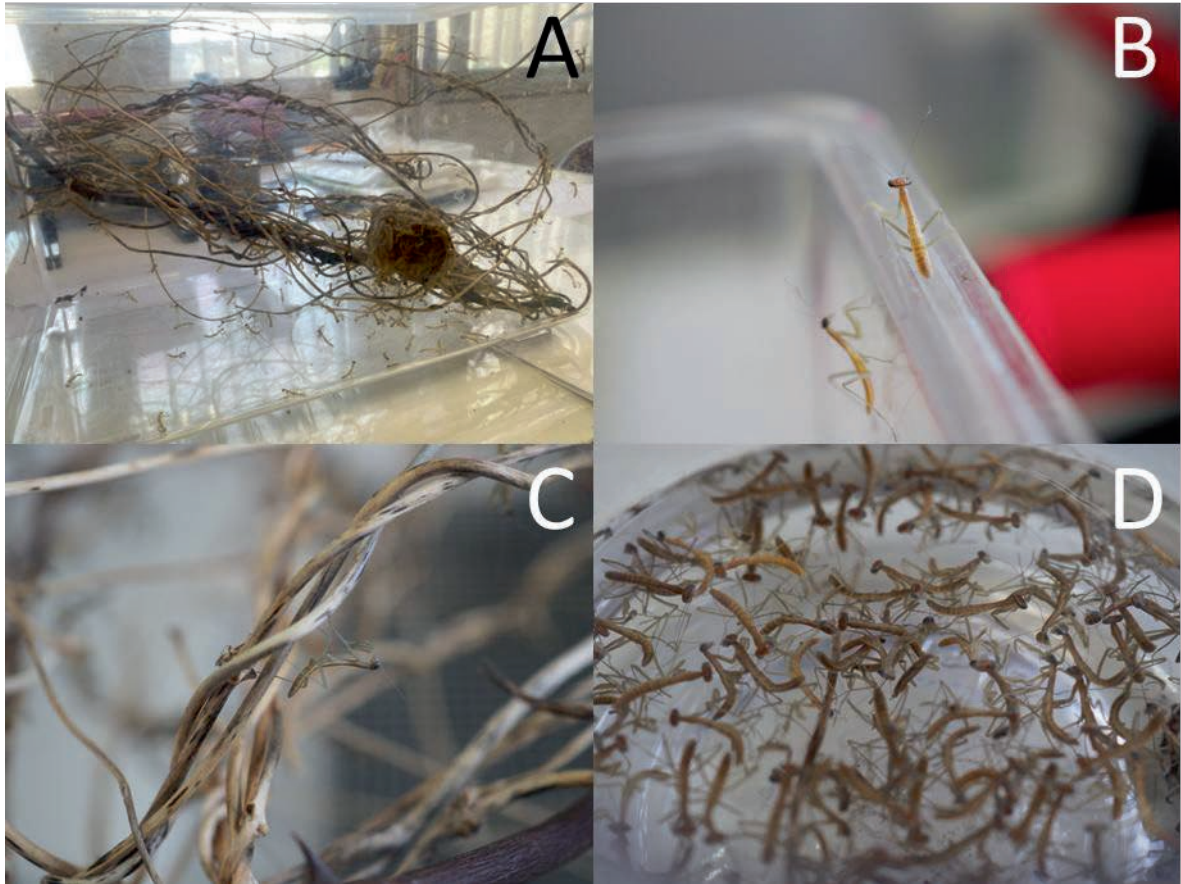


図4. 2024年12月12日に野外採取した卵囊から孵化したオオカマキリの幼虫。
A) 2025年5月21日に孵化したオオカマキリ. B, C) 初齢の幼虫. D) 幼虫の液浸標本.

<年報>

様似郷土館

1. 施設概要

所在地 〒058-0024 北海道様似郡様似町会所町1番地

建物構造 鉄筋コンクリート平屋建て

建物面積 199.74 m²

開館 昭和42年4月5日

開館時間 10:00～16:30

休館日 月曜日、祝日の翌日、年末年始

2. 運営

(1) 職員

教育委員会

教育長 秋山 寛幸

生涯学習課 参事 児玉 正敏 (郷土館館長)

生涯学習課 学芸員 榎本 尊 (郷土館担当) 《専門：昆虫学》

会計年度任用職員(事務補助) 港 菜々美

(2) 様似郷土館運営審議会(兼) 様似町文化財調査委員会

任期：令和7年11月1日～令和9年10月31日

委員長：笹島 秀則

副委員長：佐々木 正

委員：成田 康尋、前 春雄、泉田 小百合

活動：2024年4月13日 審議委員による郷土館、ジオラボ、収蔵庫の視察

2025年4月22日 令和6年度様似郷土館運営審議会

3. 郷土館利用状況

令和6年度は、295日の開館、806人の来館者であった。

4. 郷土館事業活動内容

(1) 寄贈資料受入件数

令和6年度寄贈資料

月日	資料名	点数
4月1日	株式会社 天野商店 看板 他	467
4月3日	マイクロカセットコーダーM-205、他	5
4月13日	手回し式サイレン	1
4月17日	黒曜石	1
5月15日	学帽用バッジ 他	19
5月17日	レコードプレーヤー 他	19
7月10日	日高本線「優駿浪漫号」サイドボード	1
9月10日	富士フィルム スライドマウントケース	1
9月11日	満州事變 国防献品記念録 陸軍省	1
10月25日	お盆 他	19
11月13日	第4回60周年記念写真史編さん委員会（様似のあゆみ）、他	232
1月10日	模造刀 他	6
		772

(2) 公開・展示

令和6年度

・様似郷土館 企画展「カンカン講座ってどんな講座！？展」

実施期間 令和6年4月10日（水）～17日（水）（7日間）

会場 様似町中央公民館 ギャラリー21

内容 カンカン講座の令和5年度の実績、令和6年度の予告、過去回の紹介展示
名簿記入 19名

・様似郷土館 企画展「夏休み昆虫展」

実施期間 令和6年8月14日（水）～22日（木）（8日間）

会場 様似町中央公民館 ギャラリー21

内容 国内外の昆虫標本、生体、解説パネル、写真の展示
名簿記入 73名

・様似郷土館 企画展「魅惑のチョウ展—大和コレクション—」

実施期間 令和7年3月12日（水）～26日（水）（13日間）

会場 様似町中央公民館 ギャラリー21

内容 令和6年に寄贈のあったチョウ標本「大和コレクション」及び解説パネルの展示

特典 全5種類のオリジナル蝶カード（計274枚を配布）

名簿記入 219名

(3) 講演・講座

令和6年度

日付	事業名	講演名・内容	場所	講師	参加者数
5月16日	昆虫観察会	昆虫観察会	浦河フレンド森のようちえん	榎本 尊 (様似郷土館 学芸員)	6
6月29日	ワクワクドキドキサイエンス	北海道大学の福澤先生と学ぶ川の生き物調査&果物電池!?づくり	生涯スポーツ研修センター、様似川	福澤 加里部 (北海道大学)	12
7月11日	第62回北海道博物館大会	日本産貝食性オサムシにおける捕食戦略と陸産貝類の防御法	函館市民会館	榎本 尊 (様似郷土館 学芸員)	120
8月8日	えりも町デイキャンプ	昆虫観察会	えりも町 百人浜 オートキャンプ場	榎本 尊 (様似郷土館 学芸員)	21
8月24日	禅輪寺講話	様似町が誇る昆虫のはなし	様似町 禅輪寺	榎本 尊 (様似郷土館 学芸員)	20
9月5日	様似小学校 宿泊体験学習	様似山道見学、まが玉づくり	様似山道、様似町中央公民館	榎本 尊 (様似郷土館 学芸員)	29
9月13日	高齢者学級	様似町が誇る昆虫のはなし	様似町 緑町生活館	榎本 尊 (様似郷土館 学芸員)	30
10月29日	日胆地区博物館等連絡協議会研修会	様似郷土館における連携事業の紹介	新ひだか町博物館	榎本 尊 (様似郷土館 学芸員)	18
2月16日	北海道自然史研究会 2024年度大会	様似町で採集した特筆すべき昆虫類について	北大総合博物館	榎本 尊 (様似郷土館 学芸員)	
3月12日	アポイカレッジ	番組制作を通してみる北海道の自然	様似町中央公民館	小島 裕生 (ニューピークフィルム)	35

(4) 連携事業

令和6年度は町立様似図書館、様似郷土館、アポイ岳ジオパークビジターセンターの3館の連携講座「カンカン講座」を年12回実施した。実施日、実施内容については、以下のとおりである。

日付	事業名	参加者数	担当館	担当者
4月20日	楽読みしおりを作って、様似町史を読もう!	10	町立様似図書館	小川
5月25日	透けるペーパークラフト作り	11	アポイ岳ジオパークビジターセンター	加藤
6月15日	夏の昆虫観察会 in 観音山	10	様似郷土館	榎本
7月27日	ビジターセンター見学とブラアポイ	8	アポイ岳ジオパークビジターセンター	水永
8月17日	標本教室ー基礎から学ぶ昆虫標本づくりー	12	様似郷土館	榎本
9月28日	和紙のランプづくり	14	町立様似図書館	小川
10月5日	ブラアポイで秋の味覚さがし	10	アポイ岳ジオパークビジターセンター	水永
11月23日	グラス彫刻&化石を詳しく見てみよう	10	アポイ岳ジオパークビジターセンター	加藤
12月21日	年越し準備!! オリジナルしめ飾りづくり	15	様似郷土館	榎本
1月18日	冬の観音山探検 温風穴を見てみよう	7	アポイ岳ジオパークビジターセンター	加藤
2月22日	ハエの世界を見てみよう	10	アポイ岳ジオパークビジターセンター	水永
3月29日	様似川のさんぽ	17	アポイ岳ジオパークビジターセンター	加藤

(5) 資料の貸出等

令和6年度の資料貸出等の件数は、13件であった。内訳は貸出6件、デジタルデータ貸出(・掲載)6件、印刷依頼1件で、総貸出点数は126点であった。詳細は以下のとおりである。

月日	区分	資料名	点数	依頼者	目的
4月17日	印刷	新聞切り抜きの印刷	30	等澗院	説明用
5月29日～31日	貸出	片口	1	様似アイヌ協会	イチャルバ
6月1日	貸出	昆虫標本	10	北大昆虫研究会	北大祭での標本展示
6月2日	デジタルデータの貸出	熊の動画、写真、被害写真	5	TBS「THE TIME」	番組での使用
6月27日～7月9日	貸出	アイヌ文様の法被	35	様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会	香港ジオパーク小学生のアイヌ文化体験
7月5日	デジタルデータ貸出、印刷	霊簿、古文書	3	等澗院	広報用
7月28日	デジタルデータ貸出	シャマニ場所絵図	1	札幌市民	「北海道の脊梁 日高山脈」発刊
8月2日～9月6日	貸出	西忠義関連資料	2	浦河町教育委員会	浦河町立郷土資料館 企画展「ふるわれた筆跡 西忠義展」
10月12日	貸出	片口	1	様似アイヌ協会	イチャルバ
10月26日～27日	貸出	アイヌ文様の法被	12	様似民族文化保存会	HIDAKA TRAIL DAYSでのアイヌ料理出店スタッフ着用
1月18日	デジタルデータ貸出	対馬政雄関係資料	8	図書館職員	福寿草の原稿用
1月23日	デジタルデータ貸出、複製	等澗院忠霊簿	17	等澗院	資料提供
2月27日	デジタルデータ貸出	紀要データ(ツヤキカワムシ)	1	林野庁職員	調査資料

5. 事業一覧

月	日	事業名	参加人数	場所
4月	3日	TOPPAN様似町内現地調査	3名	町内
	6日	浦河町放課後デイサービス「からし種」見学・体験会	14名	様似郷土館
	10日	カンカン講座ってどんな講座!?展【至17日】	19名	中央公民館
	13日	郷土館運営審議会委員 ジオラボ・収蔵庫・郷土館の見学会	11名	町内
	14日	えりも山岳会 豊似岳登山	17名	えりも町
5月	1日	浦河町放課後デイサービス「からし種」見学	17名	様似郷土館
	10日	第30回アポイ岳保全対策協議会	20名	日高振興局
	10日	TOPPAN 打ち合わせ	3名	様似郷土館
	15日	日高管内社会教育職員研究協議会 学芸員部会	5名	浦河町総合文化会館
	16日	浦河フレンド森の幼稚園 昆虫観察会	7名	浦河町
	21日	令和6年度様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会		中央公民館
	25日	盗掘防止キャンペーン	10名	アポイ岳
	28日	埋蔵文化財事前調査 朝日丘の太陽光パネル事業者	4名	朝日丘
	29日	佐藤謙先生によるアポイ岳植物調査	4名	アポイ岳
	30日	日胆地区博物館等連絡協議会 総会【至31日】	21名	室蘭市

月	日	事業名	参加人数	場所
6月	1日	アポイ岳再生委員会 現地作業、総会	28名	アポイ岳
	4日	イオン同友店会事務局 事前視察	6名	様似町
	5日	ヒダカソウ調査 幌満岳	10名	幌満岳
	6日	様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会総会	20名	中央公民館
	12日	TOPPANとのアイヌ交付金打合せ	3名	様似郷土館
	13日	日高管内初級研修	43名	静内
	13日	ガイドの会勉強会	20名	中央公民館
	21日	イオン同友店会 クリーン活動&北海道遺産視察	38名	様似町
	22日	北海道大学総合博物館 大原昌宏先生と行く 様似・浦河 昆虫採集の旅【至23日】	中止	浦河町・様似町
7月	29日	ワクワクドキドキサイエンス「北海道大学の福澤先生と学ぶ 川の生き物調査&果物電池！？づくり」	12名	研修センター
	1日	北海道遺産スタンプラリー【至2025年3月10日】	62名	等澗院
	3日	TOPPANロケハン・案内	7名	様似町
	11日	北海道博物館大会【至12日】	120名	函館市
	13日	ふれあい少年少女キャンプ大会 昆虫観察会講師	15名	様似ダム
	20日	北大昆虫体系学教室 夜間昆虫調査	4名	幌満
	21日	澤井氏による擦文土器の調査【至22日】	2名	様似郷土館
	25日	浦河町立郷土博物館伊藤学芸員による資料確認	2名	様似郷土館
8月	6日	由仁町郷土史研究会訪問	2名	様似郷土館
	7日	TOPPAN町内撮影【至8日】	5名	様似町
	8日	えりも町 こどもデイキャンプ 昆虫観察会講師	21名	えりも町
	14日	夏休み昆虫展【至22日】	73名	中央公民館
	15日	東京国際大学 杉本教授訪問	3名	様似郷土館
	17日	小樽商科大学 高野研究員訪問【至18日】	3名	様似郷土館
	18日	大和興三記念館からの寄贈標本の運搬(1回目)	2名	帯広市
	20日	えりも町 中岡学芸員訪問	1名	様似郷土館
	21日	植物モニタリング調査	4名	アポイ岳
	22日	夏休み昆虫展解説 幼児センター園児	30名	中央公民館
	24日	禅輪寺 講話「様似町が誇る昆虫のはなし」	20名	禅輪寺
	30日	TOPPAN・総北海・様似町のアイヌ交付金に係るオンライン会議	12名	中央公民館
9月	4日	文化財パトロール	3名	様似郷土館
	5日	様似小学校 宿泊体験学習「様似山道見学」「勾玉づくり」	29名	様似町
	13日	錦・緑高齢者学級 講話「様似町が誇る昆虫のはなし」	30名	様似郷土館
	20日	ブンカラ共同研究「マキリの調査」【至21日】	6名	ウポポイ
	23日	帯広市大和興三記念館からの標本寄贈(2回目)	2名	帯広市
10月	4日	漂着したウミガメの処理	4名	日高耶馬溪
	6日	山川氏訪問・資料寄贈(広尾町の水棲昆虫愛好家)	1名	様似郷土館
	9日	今野氏訪問(釧路市 テントウムシ、マルハナバチ研究者)	1名	様似郷土館
	10日	アポイ岳再生事業、現地作業	26名	アポイ岳
	10日	TOPPAN打ち合わせ	3名	様似郷土館
	12日	猿留山道を歩く会・秋	33名	えりも町
	18日	ジオ学習「秋の昆虫観察会」	40名	ビジター
	18日	様似町職員新人研修 郷土館解説	11名	様似郷土館
		令和6年度 日胆地区博物館等連絡協議会研修会		
	29日	兼日高管内社会教育職員研究協議会学芸員部会研修会【至30日】 様似郷土館での連携事業 <small>ホニホニ</small>	18名	新ひだか町

月	日	事業名	参加人数	場所
11月	4日	館内定期清掃	5名	様似郷土館
		様似山道歩こう会 秋 【雨天により中止】	20名	様似山道
	7日	プンカラ研修会（オンライン）【至8日】		様似郷土館
	7日	TOPPAN打合せ（オンライン）	6名	中央公民館
	11日	野田村職員訪問	4名	様似郷土館
	13日	アポイ岳馬の背のリター除去	8名	アポイ岳
	22日	様似中学1年生（2班）インタビュー訪問	13名	様似郷土館
	28日	教育委員の郷土館見学	7名	様似郷土館
12月	5日	小型哺乳類コレクション形成のための研究会【至6日】	19名	北海道博物館
	10日	TOPPAN打合せ（オンライン）	3名	様似郷土館
	11日	ジオ学習「冬の昆虫観察会」【至12日】	25名	様似川
	14日	からし種見学	17名	様似郷土館
	15日	帯広市大和興三記念館からの標本寄贈（3回目）	2名	帯広市
	17日	令和6年度文化財（美術工芸品）保存修理講習会（オンライン）		様似郷土館
	19日	アイヌ交付金事業の解説看板設置	5名	町内
	28日	関東昆虫学研究会第8回大会（オンライン）		様似郷土館
1月	20日	様似の海の動画3本 公式YouTube公開開始		
	29日	蝦夷三官寺みらいネットワーク 総会（書面）		中央公民館
	30日	アポイ岳保全ネットワーク 昆虫サロン（オンライン）	20名 20名	中央公民館 北大総合博物館
2月	4日	北海電工 天然記念物の現状変更に係る打ち合わせ	3名	中央公民館
	8日	第21回チョウ類の保全を考える集い（オンライン）		様似郷土館
	9日	アライグマの生態と防除	45名	えりも町
	12日	様似のアイヌ文化の動画4本 公式YouTube公開開始		
	13日	日胆地区博物館等連絡協議会 館長会議および拡大役員会	14名	苫小牧市
	14日	東部ブロック研修会	19名	浦河町
	14日	アポイカレッジ&アポイ岳自然セミナー「北海道高山帯のハイマツとお花畑の変化」	23名	中央公民館
	16日	北海道自然史研究会 2024年度大会 研究発表	約80名	北大総合博物館
	19日	Shamani Ainuの動画1本 公式YouTube公開開始		
	24日	広尾町山川さん来館 資料提供、報文のデータ化補助	1名	様似郷土館
25日	TOPPAN QRコード貼り付け作業	5名	町内	
3月	1日	北海道の山岳研究（オンライン）		北大
	4日	台湾原住民族との交流事業 郷土館見学	14名	様似郷土館
	12日	企画展「魅惑のチョウ展—大和コレクション—」【至26日】	219名	中央公民館
	12日	アポイカレッジ「番組制作を通してみる北海道の自然」	35名	中央公民館
	31日	郷土館紀要5号 発行		

アポイ岳ジオパークビジターセンター

1. 施設概要

所在地 〒058-0004 北海道様似郡様似町字平宇 479 番地の 13

建物構造 鉄骨造地上 1 階建

建物面積 499.28 m²

開館 平成 25 年 4 月 1 日

開館時間 午前 9 時から午後 5 時

休館日 11 月 1 日から 3 月 31 日

2. 運営

(1) 職員

様似町

商工観光課長 板谷 潤(センター長)

商工観光課ジオパーク推進係長・アポイ岳保全係長 佐々木 将貢

商工観光課ジオパーク推進係主任学芸員 加藤 聡美 《専門：岩石》

商工観光課アポイ岳保全係学芸員 水永 優紀 《専門：植物生態学》

会計年度任用職員 吉井 広三、福村 知恵子

3. ビジターセンター利用状況

令和 6 年度は、214 日の開館、9,026 人の来館者であった。

冬季（11 月～3 月）は閉館。

4. ビジターセンター事業活動内容

(1) 寄贈資料受入件数

令和 6 年度はなし。

(2) 講演・講座等

令和 6 年度

・アポイカレッジ・アポイ岳自然セミナー(講演)

講座名 北海道分水嶺縦断と日高山脈

講師 野村 良太 氏 (山岳ガイド)

日時 令和 6 年 5 月 12 日 (日)

会場 町立様似図書館視聴覚ホール

内容 国立公園化事業として、アポイ岳ファンクラブとの共催事業。過酷な分水嶺縦断の苦勞の数々や、景色の美しさ、テレビ番組制作の裏話などについてお話いただいた。

・ジオパーク巡回展 「地球時間の旅」

実施期間 令和 6 年 8 月 30 日 (金) ～9 月 2 日 (月)

会場 町立様似図書館・中央公民館

内容 岩石標本、展示パネル

・アポイカレッジ(講演)

講座名 世界に誇る・・・アポイ岳のかんらん岩と日高山脈
講 師 新井田 清信 氏 (アポイ岳地質研究所「ジオラボ・アポイ岳」 所長)
日 時 令和6年9月7日 (土)
会 場 様似町中央公民館文化ホール
内 容 北海道に生まれ育ち、北海道大学に学び、退職後の今に至るまで新井田先生が取り組まれてきた、変動する地球、世界に誇るアポイ岳のかんらん岩と日高山脈についてお話いただいた。

・アポイカレッジ(講演)

講座名 北海道巡検とジオツアー
講 師 高木 秀雄 氏 (早稲田大学・日本地質学会ジオパーク支援委員会委員)
日 時 令和6年9月19日 (木)
会 場 様似町中央公民館文化ホール
内 容 早稲田大学教育学部の北海道巡検は今年で 59 回目。アポイ岳ジオパークの重要な地質の特徴を、1 週間の北海道ジオツアー (北海道巡検コース) として紹介いただいた。

・アポイカレッジ(講演)

講座名 幌満出身のホースマン・函館大経～古文書等から新たに判ったこと～
講 師 川島 利一郎 氏 (白石市郷土資料館運営協議会委員)
日 時 令和6年11月14日 (木)
会 場 町立様似図書館視聴覚ホール
内 容 1799年の様似山道開削に尽力された和助さんの孫の函館大経は、役人として北海道の産業振興に尽力し、競馬社会においては多数の弟子を育て、騎手・調教師人脈の頂点となっています。その函館大経について、近年の古文書などの調査から新たに判ったことについてお話いただいた。

・アポイカレッジ・アポイ岳自然セミナー(講演)

講座名 北海道高山帯のハイマツとお花畑の変化
講 師 雨宮 教弘 氏
日 時 令和7年2月14日 (金)
会 場 様似町中央公民館
内 容 高山帯のハイマツやササ・お花畑の植物がこの30～40年間でどれだけ分布が変化し、将来的にはどうなるのか、大雪山の事例を中心にお話いただいた。

(3) 連携事業

様似郷土館と同様のため省略

(4) 資料の貸出等

令和6年度の資料貸出等の件数は、8件であった。内訳はデジタルデータ貸出8件、総貸出点数は21点であった。詳細は以下の通りである。

月日	区分	資料名	点数
4月17日	デジタルデータの貸出	展示パネル（地球の深くからやってきたアポイ岳）	1
6月28日	デジタルデータの貸出	看板（会所跡・エンルム岬・親子岩・カムイチャシ・観音山展望台・岡田のチセ・アポイ岳ジオパークビジターセンター・冬島の穴岩・和助地蔵）	9
8月7日	デジタルデータの貸出	写真（アポイ岳ジオパークビジターセンター）	1
11月6日	デジタルデータの貸出	展示パネル（北半球の3つのプレート分布と北海道の位置・日高変成帯の地質図）・映像（アポイ岳～岩と海が織りなす大自然～）	3
11月15日	デジタルデータの貸出	展示パネル（現在のプレート配置図・約1300万年前のプレート配置図・アポイ岳のなりたち）	3
11月18日	デジタルデータの貸出	展示パネル（日高山脈断面図）	1
11月22日	デジタルデータの貸出	写真（ヒロハヘビノボラズ）	1
12月25日	デジタルデータの貸出	展示パネル（日高山脈の形成）、写真（アポイ岳馬の背）	2

5. 事業一覧

令和6年度

月	日	事業名	参加人数	場所
4月	13日	アポイ岳5合目簡易トイレブース設置		アポイ岳
	22日	フィンランドのジオパークとオンライン交流	2名	オンライン
	21日	ブラアポイ 全12回（4/21・28・5/11・25・6/9・16・7/6・8/4・9/7・21・10/13・14）	86名	アポイ山麓
5月	3日	アポイ岳ジオパークビジターセンター工作（5/3・5・26）	17名	ビジターセンター
	4日	石の世界を見てみよう 全12回（5/4・6・19・6/8・22・29・7/15・8/3・17・24・9/15・22）	67名	ビジターセンター
	8日	様似小学校5年生アポイ岳登山事前学習	23名	様似小学校
	9日	様似小学校3・4年生アポイ岳登山事前学習	46名	様似小学校
	9日	APGN's "Let's Do It オンラインミーティング"（5/9・8/22・11/21・3/11）	2名	オンライン
	10日	様似小学校6年生アポイ岳登山事前学習	24名	様似小学校
	10日	アポイ岳保全対策協議会		日高振興局
	12日	講演会「北海道分水嶺縦断と日高山脈」	62名	町立様似図書館
	15日	浦河町立東部小学校アポイ登山事前学習会	45名	浦河町立東部小学校
	11日	幼児センターアポイ岳登山事前学習	41名	幼児センター
18日	浦河町立東部小学校アポイ登山	45名	アポイ岳	

月	日	事業名	参加人数	場所	
6月	21日	様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会役員会	8名	役 場	
	24日	アポイ岳高山植物盗掘防止合同監視	10名	アポイ山麓	
	25～ 26日	日本地球惑星連合科学大会ジオパークセッション・JGN運営会議	1名	千 葉 県	
	31日	アポイドリームプロジェクト		エンルム岬	
	1日	アポイ岳再生委員会作業・総会		アポイ岳 研修センター	
	6日	様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会総会	32名	中央公民館	
	8日	アポイ岳高山植物盗掘防止合同監視		アポイ山麓	
	21日	浦河町立荻伏小学校アポイ登山	34名	アポイ岳	
	25日	様似小学校5年生校外学習	22名	ビジターセンター	
	30～ 4日	香港Marymount小学校の研修旅行の受入	32名	町 内	
	7月	8日	浦河町立第二中学校1年生体験学習	9名	浦河町・町内
		10～ 12日	北海道博物館大会	1名	函 館 市
		16日	様似中学校ポスターセッション		様似中学校
26～		三笠ジオパークエクスカッション・第8回北海道ジオパーク	5名	三 笠 市	
28日		ネットワーク連絡会議・北海道ジオパーク展2024 in summer	44名		
27日		カン×カン講座「ビジターセンター見学とブラアポイ」	8名	アポイ山麓	
8月		10～ 12日	アポイ岳ジオパークDEスタンプラリー	42名	町 内
	10～ 11日	第2回北海道理科教育夏の学習会	19名	町 内	
	12日	アポイ岳ジオパークビジターセンター風鈴づくり	18名	アポイ岳	
	16日	(8/12・16)	8名	ビジターセンター	
	21日	札幌大谷大学美術学科のオオタニアートキャラバン 「見つけよう様似の仲間たち」		様似小学校	
	23日	ジオパーク巡回展 地球時間の旅 (8/23～9/26)	80名以上	町立様似図書館 ギャラリー21	
	27日	令和6年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会（仮称）設立総会		オンライン	
	30日	日本ジオパーク全国大会下北大会 (8/30～9/2)	16名	青 森 県	
9月	5日	様似小学校5年生宿泊学習	26名	様 似 山 道	
	7日	アポイカレッジ 「世界に誇る・・・アポイ岳のかんらん岩と日高山脈」	60名	中央公民館	
	13日	様似小学校5年生アポイ岳登山	24名	アポイ岳	
	13～ 15日	パラタクソノミスト講座植物中級	1名	札 幌 市	
	19日	アポイカレッジ「北海道巡検とジオツアー」	52名	中央公民館	
	19日	浦河町立堺町小学校6年生地層観察学習	46名	浦 河 町	
	20日	日高管内商工会女性部員研修会	30名	東様似生活館	

月	日	事業名	参加人数	場所
	24～ 25日	北海道のジオパークポスター展2024		北海道庁
10月	1日	日本ジオパーク委員会現地調査員研修会	1名	オンライン
	3日	日本ジオパーク委員会現地調査情報共有会	1名	オンライン
	5日	カン×カン講座「ブラアポイで秋の味覚さがし」	8名	アポイ山麓
	7～ 8日	東北大学理学部の地質巡検	22名	ビジターセンター 幌 満
	10日	アポイ岳再生委員会作業		アポイ岳
	10日	第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会 第1回道内ジオパーク事務担当者会議	2名	オンライン
	11日	令和6年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第1回幹事会 アポイ岳周辺利用施設見学会	30名 27名	中央公民館 ビジターセンター
	13日	ナナイロひだか高校生応援プロジェクト	15名	ビジターセンター
	15～ 18日	桜島・錦江湾ジオパークの再認定現地調査	1名	鹿児島県
	16日	国立公園記念切手フレーム贈呈式		応 接 室
	18日	幼児センター アポイ山麓自然学習	19名	アポイ山麓
	20日	エンルム海岸DEゴミ拾い～次代に残そうきれいな海岸～	35名	エンルム岬
	30日	様似中学校1年生 様似のなりたちツアー	27名	町 内
11月	11～ 13日	チョウ類保全協会 アポイ岳再生作業	39名	アポイ岳
	14日	アポイカレッジ「幌満出身のホースマン・函館大経～古文書等から 新たに判ったこと～」	17名	町立様似図書館
	20日	浦河町立浦河小学校6年生理科地層学習	18名	浦 河 町
	22日	様似中学校1年生インタビュー学習	25名	町 内
	17日	カン×カン講座「ガラス彫刻・化石を詳しく見てみよう」	7名	中央公民館
	28日	令和6年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会 日高山脈登山道適正利用普及部会（仮称）準備会合	2名	帯 広 市
	29日	幼児センタージオ学習	17名	町 内
12月	6日	Japanese Global Geoparks Networks準備委員会	5名	オンライン
	12日	アポイドリームプロジェクト		様似中学校
	20日	令和6年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第2回幹事会・ 日高山脈登山道適正利用普及部会（仮称）第2回準備会合	2名	オンライン
1月	18日	カン×カン講座「冬の観音山探検～温風穴を見てみよう～」	4名	観 音 山
	20日	アポイドリームプロジェクト	24名	様似中学校
	30日	第3回アポイ岳保全ネットワーク会議	19名	中央公民館
	30日	2024年度第2回日本ジオパークネットワーク委員会 現地調査員研修会	2名	オンライン
2月	4日	第15回日本ジオパークネットワーク全国大会十勝岳大会実行委員会 設立総会・第3回道内ジオパーク事務担当者会議	1名	美 瑛 町
	14日	アポイ岳自然セミナー「北海道高山帯のハイマツとお花畑の変化」	20名	中央公民館

月	日	事業名	参加人数	場所
3月	19日	令和6年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第3回幹事会・ 日高山脈登山道適正利用普及部会（仮称）第3回準備会合	2名	オンライン
	24日	カン×カン講座「ハエの世界をみてみよう」	7名	中央公民館
	15～ 16日	みんなおいでよ！北海道ジオパーク展	250名	札幌市
	29日	カン×カン講座 「様似川のさんぽ」	18名	様似川

様似郷土館紀要 6号

発行年月日 令和8年(2026)3月31日

編集・発行 様似町教育委員会

〒058-8501

北海道様似郡様似町大通1丁目21番地

印刷 株式会社 総北海

